

復興記録

36.6 梅雨前線豪雨災害上伊那編



長野県
上伊那郡
伊那市
駒ヶ根市

伊那市長谷溝口

発刊のことば

伊那谷の災害と云えば、「昭和36年の梅雨前線豪雨」かとまで云われた250年来の、あの大災害の復旧工事も、ここに完成を見、今年に入つて各地で復興の式典があげられていることは誠に喜ばしい限りであり、これも偏に国、県、市町村、その他関係者の御指導御協力の賜と深く感謝申しあげる次第であります。

ここに「災害復興記録上伊那編」を発刊するに当り、今日のめざましい復興を喜ぶとともに、この災害によつて亡くなられた多くの犠牲者の御冥福を、お祈りいたし、大災害が再び起らないよう祈念してやみません。

昭和40年11月

上伊那町村会長	碓	田	重	人
伊那市長	原		賢	一
駒ヶ根市長	北	原	名	田造

発刊によせて

私達が幾度か経験してきた地震や、台風、洪水など数々の災害に比べて、けた違いに大きな被害を蒙った昭和36年6月の梅雨前線豪雨災害は、250年来の大雨と大洪水とによるもので、その驚きは老いも若きも皆同じでありました。

何百年もの歳月を、幾世代かに亘って、平穏に生活を続けてきた山あいの民家が、また田や畑も、道路、橋梁もそして先祖の霊の在す墓地までも、濁流や山津波によつて情け容赦なく襲われて、ここに住む人々の尊い生命を奪い、あるいは傷つけたあの惨状、また、悪魔の爪にかきむしられたあの山肌や河川の姿は、いまなおまざまざとまぶたに浮んでまいります。

この災害に対して伊那地方には前例のない、自衛隊の出動があり、広く県内外からの技術陣の来援を受け、関係市町村当局を中心として、被災地の人々が火のたまのように一丸となって、復興を旨ざして立ちあがったのでした。

国においては異例の対策を講じ、県においても行政力を集中して関係機関の総力を結集して、罹災者の援護と災害復旧にあたってきたのであります。

あれから4ケ年を経て去る昭和39年度末までに災害関係事業を終り、各地に復興をよろこぶ式典や諸行事が行われるようになったことは、想えば感慨無量というほかありません。

正直のところ、災害直後頭の片隅には、あまりにも激しかった惨状をみつめて、果して、これが立派に復旧できるだろうか。いつの日に完成を期待できるだろうか、などと危惧の念を禁じ得なかったものでした。

いまはみごとに復旧し、いかなる大災害にも堪えるであろう工事のあとに眼を向け、そこに雄々しく立ちあがった被災者の皆さんと、また新しい土地に移り住んで、営々として生活基盤を築きつゝある移住者の方々に思いを馳せながら、ともに限りなき繁栄を念じてやみません。

伊那市、駒ヶ根市ならびに上伊那町村会の企画によって完成された「災害復興の記録」は、災害の状況と復興への活躍のあとを記録されたもので、災害対策の貴重な資料となるものと信じます。

ここに関係各位の復興への偉大な貢献と、この記録編さんに注がれた努力に対して、心から敬意を表します。

上伊那地方事務所長 井 口 秀 夫

災害を顧りみて

昭和36年6月下旬に襲った、梅雨前線豪雨は尊い人命と貴重な財産をうばい、本県の災害史上最大な惨事と申されております。

この中で土木災害は県全体で約160億円に達し、その90%近い被害が上下伊那両郡に発生し、当郡市におきましても約42億円その個所実に885ヶ所にも及び、当管内のみでこのような大きな災害を蒙っております。その外農林関係や一般被害として人的被害、家屋被害等を併せますと、実にぼう大な被害であり、水魔の恐ろしさは計り知れないものがあります。

あの恐ろしい、悲惨な災害から4年数ヶ月を経た現在被災地は完全に復旧され、100年の計画が一気に改良復旧された感があります。これらの復旧には関係市町村の積極的なご援助と、ご協力は申すまでもなく、建設関係の方々のご努力や、又各府県から、応援をいただいた職員の人々のご厚意の賜りものと、心から敬意を表する次第であります。

当時の、粟沢、神宮、百々目木、四徳川等の各河川の、激甚な災害状況を想起し、又その後の記録等を見るときに、過去にない雨量と、地質的にも、本郡の東部を南北に走る、中央構造線があり、且つ河川流域は急しゆんな、荒廃地が多く、これがために各所に崩壊が生じ、多量の土石の流下が被災の主たる原因であると思われれます。

特に感じる事は、砂防施設の整備された河川は、比較的被害が少なく、これ等の実例から、砂防対策がいかに急務であるかを痛感し、年々工事予算の増加を図り、逐次その整備が促進されておる状況であります。

災害は忘れた頃にやって来ると言う、昔からの言葉がありますが、自然の猛威とは申せ、再びあのような、大災害の起らないことを念願すると共に犠牲になられた方々の、ご冥福を心からお祈り申上げる次第であります。

本誌の発刊は当時の記録として、後世に残る得がたい資料と賞賛し、私の言葉といたします。

伊那建設事務所長 三原田 鶴 象

も く じ

ま	ゑ	が	き	1
総	編			
	1、気象の概要			5
	2、被害の概況とその名称			9
土	木	編		
	1、主なる個所の被害状況			10
	2、復旧の状況			16
社会文教商工	編			
	概況			17
	1、災害救助法等厚生福祉関係について			19
	2、文教関係について			21
	3、商工関係について			24
	4、県税関係災害対策について			25
	5、建築関係について			26
衛	生	編		
	概況			28
	1、保健予防関係について			29
	2、環境衛生関係について			29
	3、食品衛生関係について			30
	4、ろ水機の活動状況について			30
農	業	編		
	1、農務関係について			31
	2、被災者の集団移住について			32
	3、耕地関係について			35
	4、蚕糸関係について			40
林	業	編		
	概況			42
	1、治山関係について			42
	2、林道関係について			47
	3、造林地関係について			49
	4、林産関係について			51
	5、国有林関係について			52
	編集後記			53

【被災トピック写真集】

表紙説明 題 字 駒ヶ根市長 北原名田造 写 真 駒ヶ根市中沢地籍新宮川
駒ヶ根市中沢4号 工事費 73,612千円 流路工 長 815m
法長 6.4m 落差工 3 基帯工 10基 谷止工 1基

総 編

1. 気象の概要

上伊那郡全域にわたって未曾有の大惨事をひき起した昭和36年6月27～30日の洪水は、「梅雨末期の豪雨」に起因するもので、即ち6月23日頃から本邦西方の高圧帯が急におとろえて、西日本の南方洋上は低圧部となり、関東の東方海上に高気圧の壁が形成された。このため本州上空に著しく湿った空気が南から多量に流れ込み、梅雨前線の活動を促した。強い雨の区域は四国方面から25日26日と次第に東へ移動し、近畿、東海地方へひろがり、前線の北上に伴って中部内陸地帯へ波及し、長野県でも日雨量50～100mmを観測した。26日夜四国南方洋上の低圧部にあった熱帯性低気圧が発達して台風6号となり、これが北上によって刺激された梅雨前線は、ますます活発になり東海、中部地方に豪雨が降り出した。しかも県南部を東西に走っていた梅雨前線は、関東東方洋上に根を張った高気圧のため、ほとんど動かず西方から近づいた気圧の谷の前面へ著しく湿った南の空気が流れ込んだため、27日には伊那谷を中心として、県南部は、記録的な集中豪雨に襲われた。

この前線は引続いて本州の大半を覆ったが、30日関東はるか東方洋上に大平洋高気圧が張り出すに及んで前線もようやく北上し、約10日に及ぶ記録的な豪雨は終りをつけた。

(イ) 降雨の状況

梅雨前線の停滞に伴って23日から降り始めた雨は断続的ではあったが、6号台風の接近と共に27日正午頃時間雨量5～35mmの強雨となり28日未明まで約30時間にわたり断続した。その後幾分弱まったが引続き時間雨量2～10mm程度で30日までの連続雨量は天竜川上流区域の南西部500～800mm、南東部500～600mm、中央部400mm、北部300～400mm程度で既往最大連続雨量をはるかに上回る記録的なものであった。

(ロ) 出水の状況

23日から26日までに梅雨前線の停滞に伴って100

～150mmの前期降雨があったため流域は悉く含水飽和状態にあり、各観測所の水位は26日夕刻には指定水位(通報水位)になりつつあった。このような状況の折27日1時頃から降雨は次第にその強さをまして、28日未明まで継続し、その降雨のほとんどが直接流出して大出水の因をなした。

2. 被害の概況と、その名称

今回の災害の主たる原因は異常気象である。6月23日からの連続降雨により土中の水分が、飽和状態となったところえ前記の集中豪雨がおそい、その後も降り続いて山地は保水限界を超え、無数の崩壊が発生した。又地質が脆弱であり(中央構造線による影響)風化侵蝕に弱いという悪条件をそなえていたことも大きな原因で、山地の著しい崩壊と、これに伴って各地に山津波が頻発し、これらが大量の土砂流となって流下したため、各河川は破堤、又は護岸の欠壊を起し、道路、橋梁、家屋及び付近の農耕地を押し流して、大きな災害となり、とりわけ幾多の尊い人命までも失われ、その災害は空前のものであった。

上伊那郡下においては、特に被害の激甚な地域は中川村全域と、分抗峠を分水嶺とする新宮川、全支川の百々目木川筋の駒ヶ根市中沢地区、並びに長谷村伊那里地区で、いずれも道路、橋梁等の流失により交通は遮断された。これらの被害の集中した駒ヶ根市、中川村、長谷村、の1市2村の被害額は郡下の80%に達している。

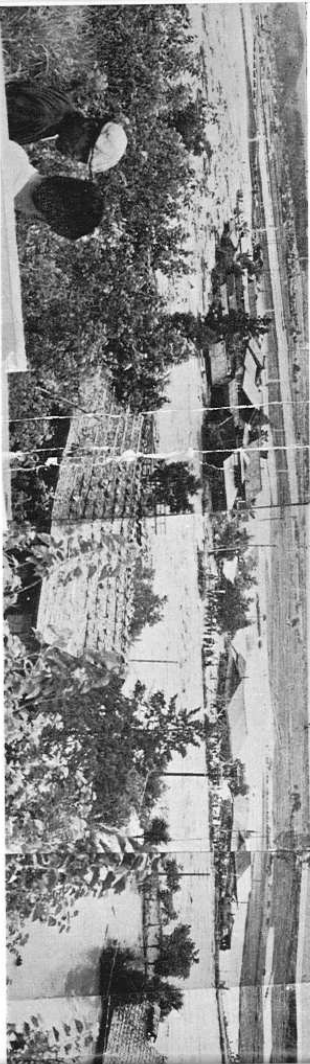
気象庁ではこの災害を「昭和36年梅雨前線豪雨」と正式に名づけた。

表 1 降 雨 状 況

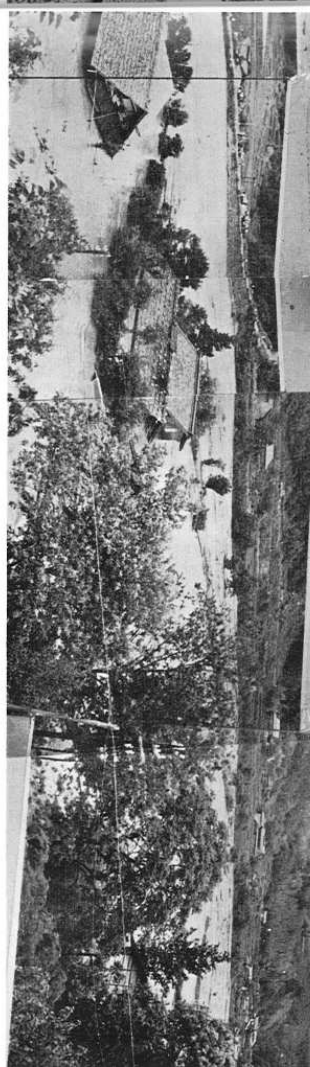
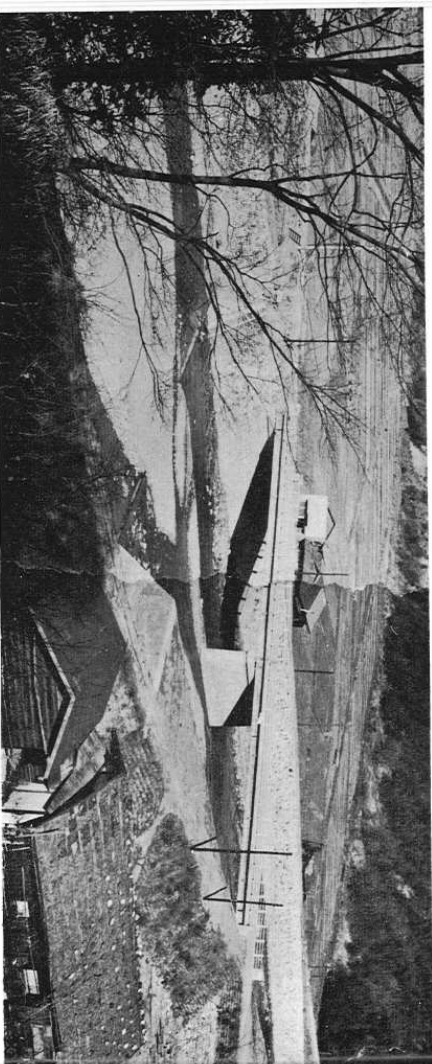
観測所名	日 雨 量						連続雨量	既生最大雨量		既生最大雨量			
	23	24	25	26	27	28		29	30	年月日	年月日	雨量	
伊那里	3.4	34.4	14.0	46.0	249.9	40.0	34.0	20.0	441.7	S.25 6.17	175.0	S.13 7.1~5	290.0
赤穂	5.3	36.0	13.2	69.4	155.5	39.5	33.8	18.9	371.6	S.20 10.4	134.0	S.25 6.8~11	239.0
渡訪	11.6	18.6	11.6	38.5	88.8	111.4	34.9	52.3	367.7	S.20 10.4	156.5	S.20 10.1~5	203.5
大飯	4.4	27.2	23.7	42.2	272.1	61.0	32.6	18.8	482.2	S.34 8.13	163.5	S.25 6.8~14	381.6
田岡	3.8	29.0	20.5	72.3	325.3	52.5	27.6	32.7	563.7	S.20 10.4	209.7	S.25 6.6~14	358.5
平岡	1.0	16.5	40.0	50.5	212.7	96.0	43.0	0	467.0	S.34 8.13	155.0	S.28 7.16~20	448.3
恵那山	4.0	35.0	30.5	110.0	429.0	135.0	104.0	15.0	862.0	S.32 6.27	250.0	S.32 6.26~28	303.0
田	2.7	29.9	18.0	68.5	346.3	51.8	25.4	28.7	571.3	S.26 10.4	200.6	S.25 6.8~13	362.0

表 2 主要地点の水位流量表

観測所名	計画高水位 (計画洪水流量)	最高水位(流量)		既生最大水位(流量)	
		月日時	水位(流量)	年月日	水位(流量)
釜口水門	295m/S	6.29.19	251m/S	S25. 6.11	261m/s
西沢	3.21m	6.29.9	1.55	23. 6.20	2.99
渡平	3.14m	6.28.6	2.35	20. 10.5	2.51
下平	4.65m	6.28.7	2.74	26. 7.15	3.15
官瀬	5.02m	6.28.5	5.22	25. 6.11	4.85
市田	5.88m	6.28.6	5.90	32. 6.28	4.75



↑県工事 新宮川野駒ヶ根市宇中沢1号(新宮川の内股下流部) 駒ヶ根市新宮川の内天竜川と合流点附近出水状況



↑竣 功 流路L=1,690m C=153.509千円 落差工3基 帯工13基 橋梁1ヶ所

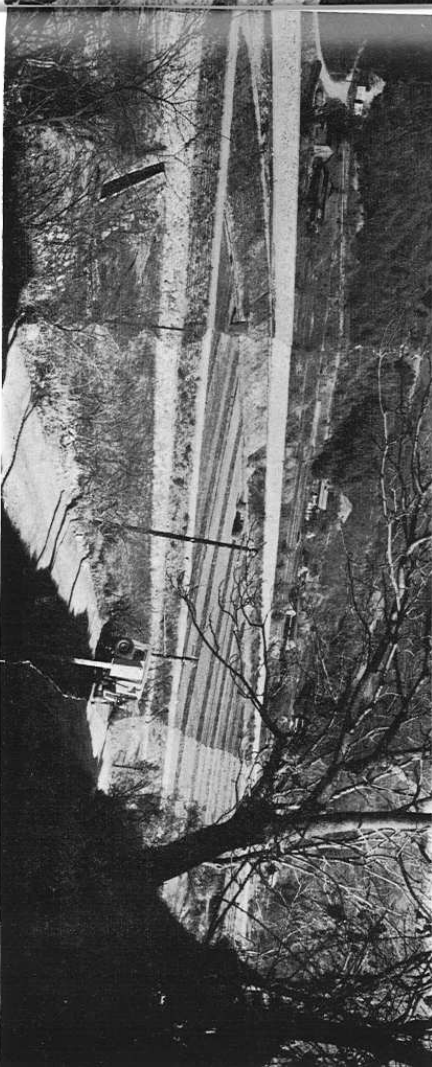


表 1 降 雨 状 況

観測所名	日 雨 量								連続 雨量	既 生 最 大 量		既 連 続 最 大 量	
	23	24	25	26	27	28	29	30		年月日	雨量	年月日	雨量
伊 那 里	3.4	34.4	14.0	46.0	249.9	40.0	34.0	20.0	441.7	S.25 6.17	175.0	S.13 7.1~5	290.0
赤 穂	5.3	36.0	13.2	69.4	155.5	39.5	33.8	18.9	371.6	S.20 10.4	134.0	S.25 6.8~11	239.0
諏 訪	11.6	18.6	11.6	38.5	88.8	111.4	34.9	52.3	367.7	S.20 10.4	156.5	S.20 10.1~5	203.5
大 鹿	4.4	27.2	23.7	42.2	272.1	61.0	32.6	18.8	482.2	S.34 8.13	163.5	S.25 6.8~14	381.6
飯 田	3.8	29.0	20.5	72.3	325.3	52.5	27.6	32.7	563.7	S.20 10.4	209.7	S.25 6.6~14	358.5
平 岡	1.0	16.5	40.0	50.5	212.7	96.0	43.0	0	467.0	S.34 8.13	155.0	S.28 7.16~20	448.3
恵 那 山	4.0	35.0	30.5	110.0	429.0	135.0	104.0	15.0	862.0	S.32 6.27	250.0	S.32 6.26~28	303.0
市 田	2.7	29.9	18.0	68.5	346.3	51.8	25.4	28.7	571.3	S.26 10.4	200.6	S.25 6.8~13	362.0



↑県工事 新宮川筋駒ヶ根市宇中沢1号(新宮川の内最下流部)

駒ヶ根市新宮川の内天竜川と合流点附近出水状況

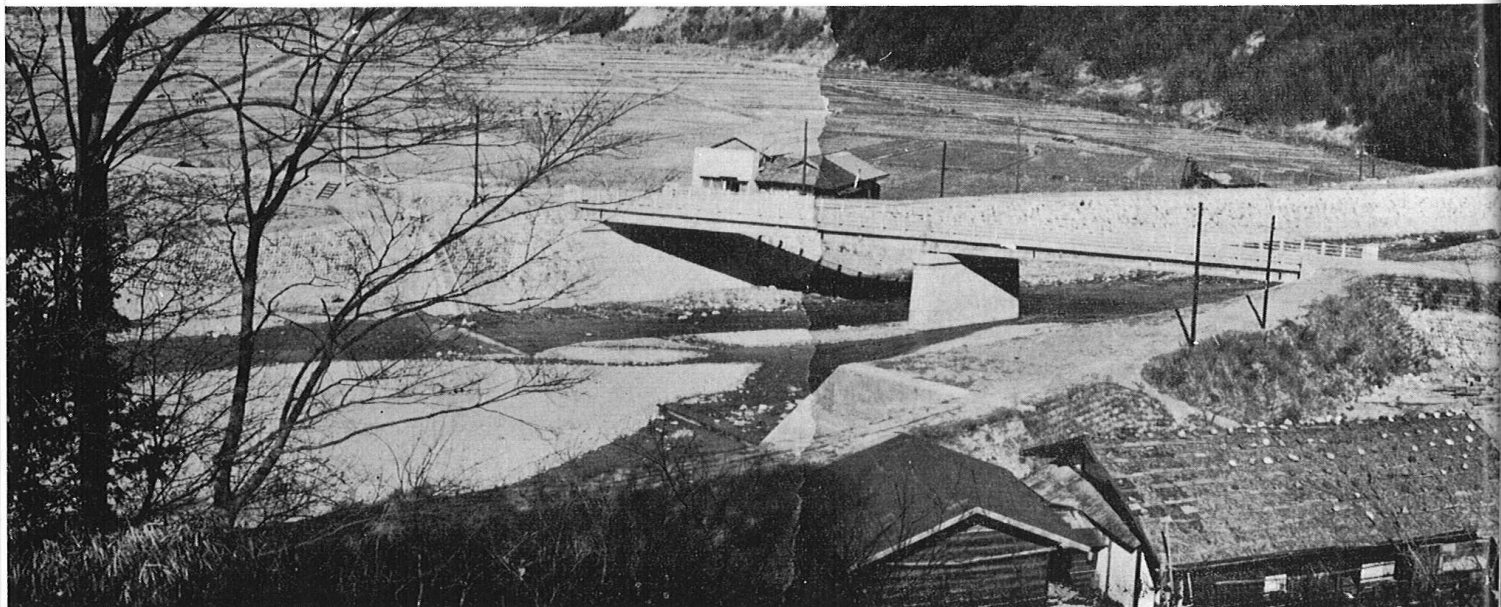


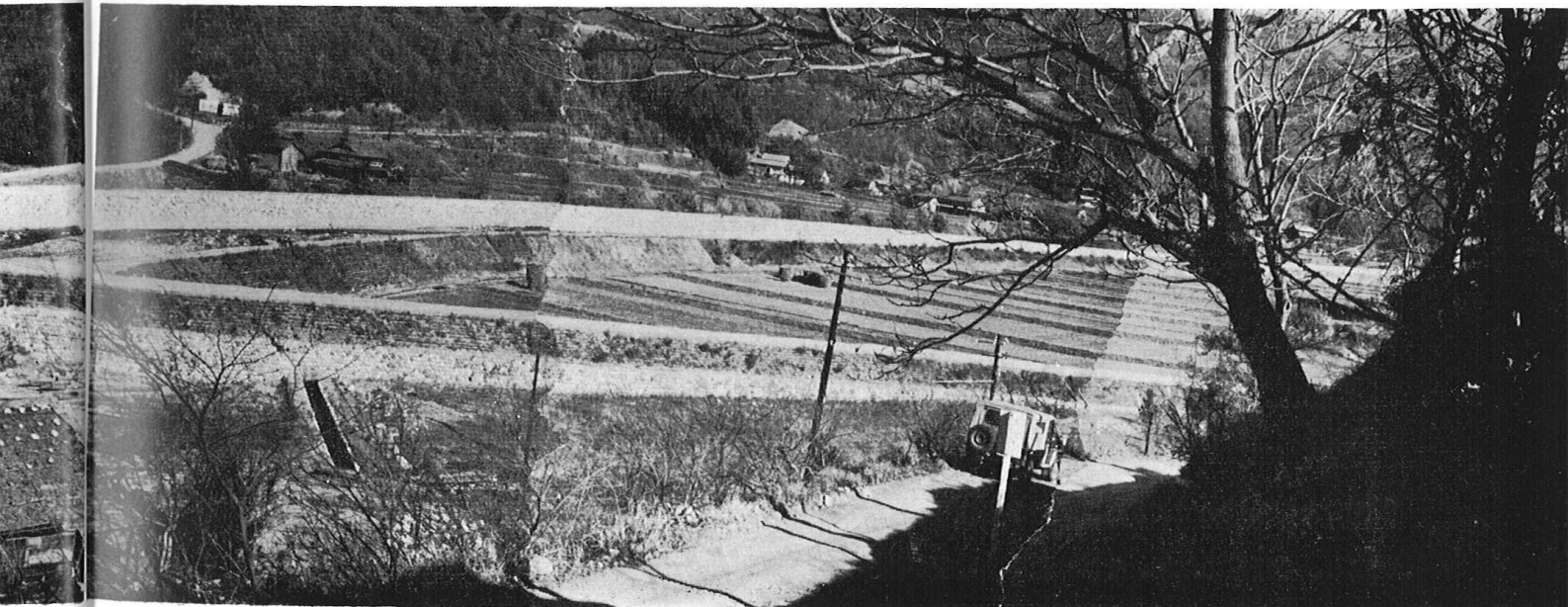
表 2

主要地点の水位流量表

観測所名	計画高水位 (計画洪水流量)	最高水位(流量)		既往最大水位(流量)	
		月日時	水位(流量)	年月日	水位(流量)
釜口水門	295 m^3 /S	6. 29. 19	251 m^3 /S	S 25. 6. 11	261 m^3 /s
西町	3.21 m	6. 29. 9	1.55	23. 6. 20	2.99
沢渡	3.14 m	6. 28. 6	2.35	20. 10. 5	2.51
下平	4.65 m	6. 28. 7	2.74	26. 7. 15	3.15
宮ヶ瀬	5.02 m	6. 28. 5	5.22	25. 6. 11	4.85
市田	5.88 m	6. 28. 6	5.90	32. 6. 28	4.75

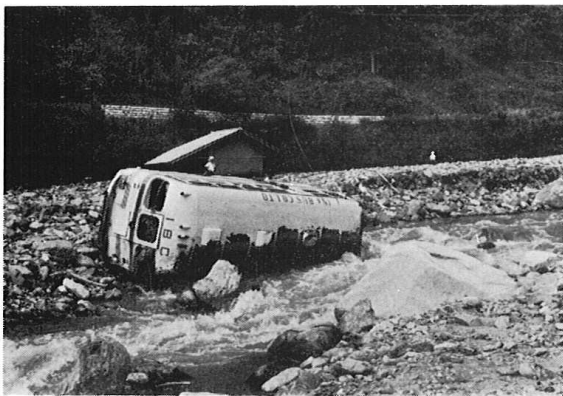


↓ 竣 功 流路工 L=1,690 m C=153,509千円 落差工3基 帯工13基 橋梁1ヶ所

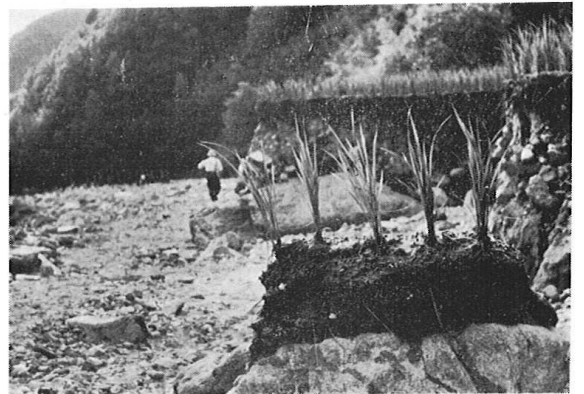




【泥水に飲まれる寸前の民家（東伊那）】



【押流された伊那バス】



【辛うじて岩の上に残った稲株】



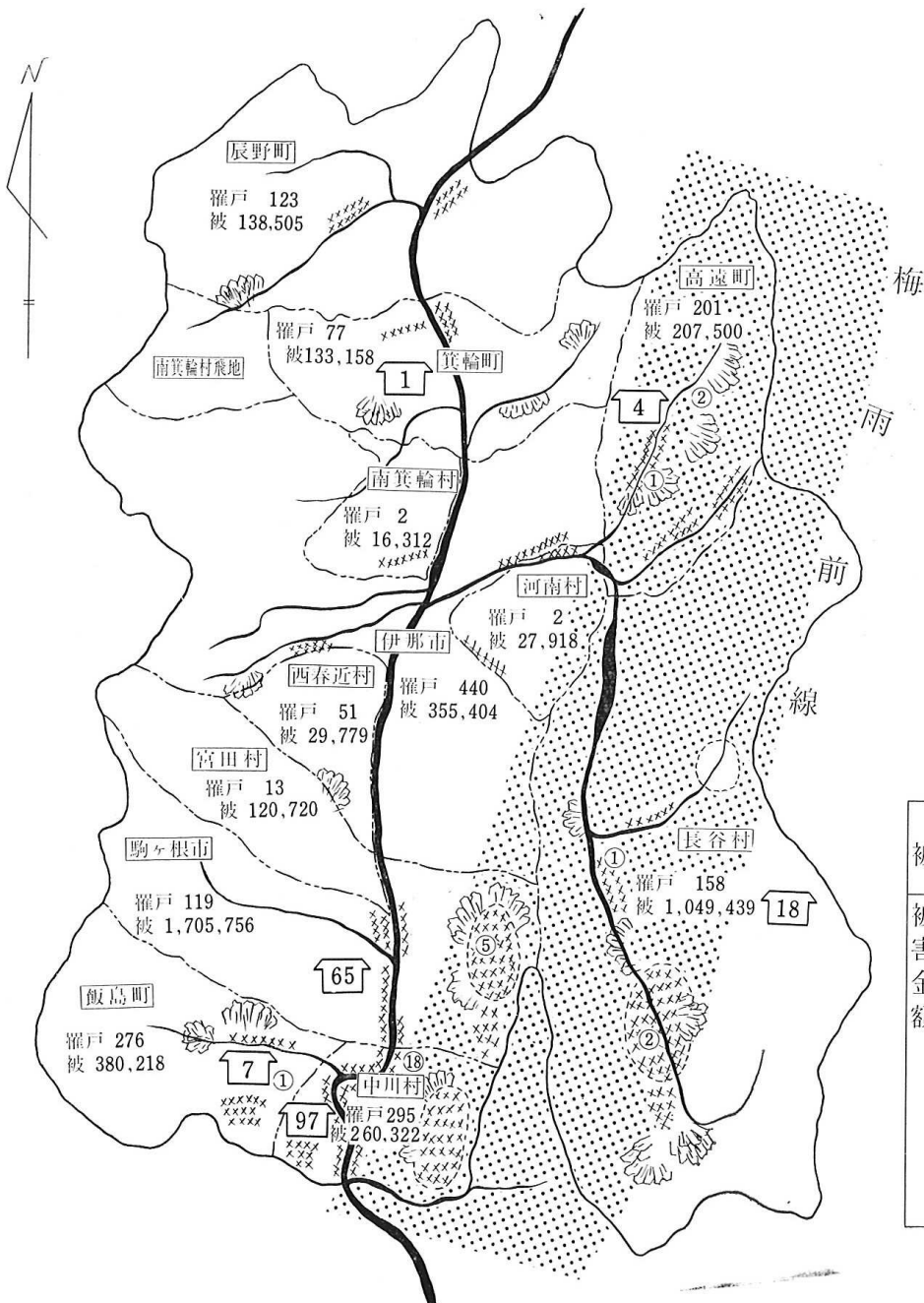
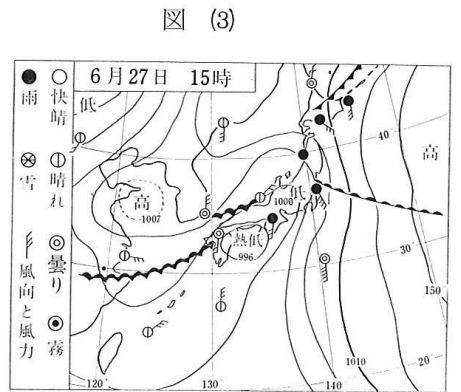
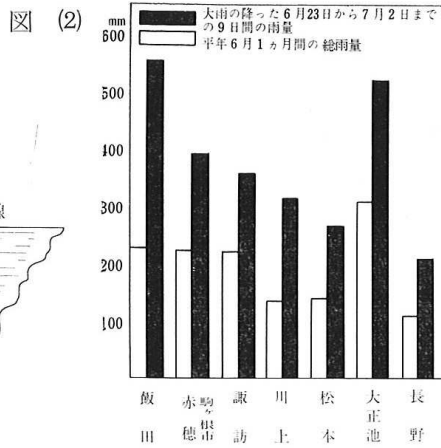
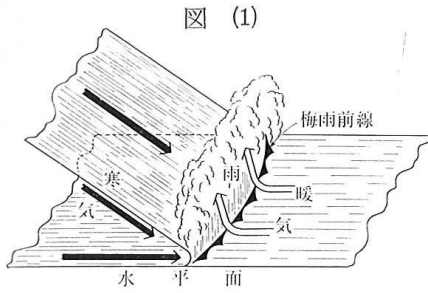
【豚 命 救 助】

梅雨前線の発生と天気図

図(1)のような気象により梅雨前線が発生し、大陸高気圧と、小笠原高気圧、それに北の高気圧が強か

ったので、前線は北上できずにいたところへ台風6号くずれの熱帯性低気圧の刺激を受けて、図(2)のような大降雨量となった。最も降雨の多かった6月27日の天気図は、図(3)のとおりである。

(信毎36.7 6より写す)



上伊那
三十六梅雨前線豪雨被災図

被災金額	192	孤立した地帯	林地の崩壊	水路耕地の欠壊埋没	死者、ゆくえ不明者数
		住家の全壊流失			30

1. 主なる個所の被害状況

(1) 新宮川水系（百々目木川を含む）

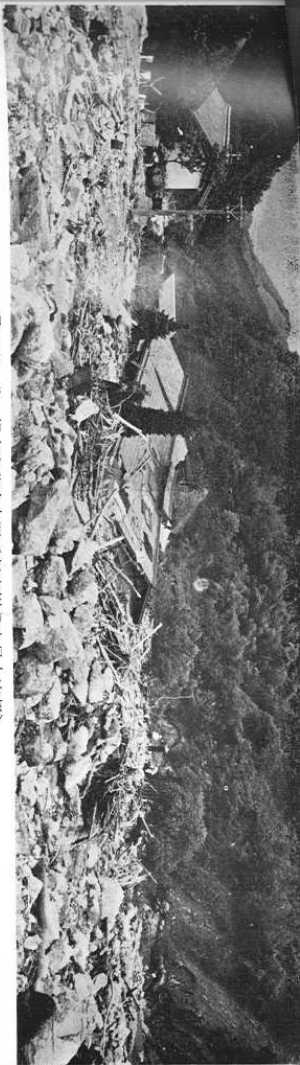
この河川は導用河川（現在1級河川）で延長9,500mあって、主なる支川は砂野河川の百々目木川で、延長は5,500mである。いずれも山腹の崩かいにより大量の土砂が流下したため破堤、懸崖の欠損等により道路、橋梁、家屋及び付近の農耕地を押し流し大きな災害をうけた。新宮川は延長9,500mのうち被災延長7,600mにおよび、この間県道築沢→赤穂停車場線の一部や橋梁を含んでおり、又百々目木川も被災延長は4,300mにおよび、これも県道西伊那線の一部と橋梁を含んでいる。県工事の外に市町村工事として新宮川に唐山沢、百々目木川に新沢の2支川が大きな被害をうけた。

復旧工事は36年度から緊急修葺を実施し40年3月完成した。又36年度にはこの両川の山腹の崩かいが著しいので、災害復旧工事の他に緊急砂防工事を実施した。

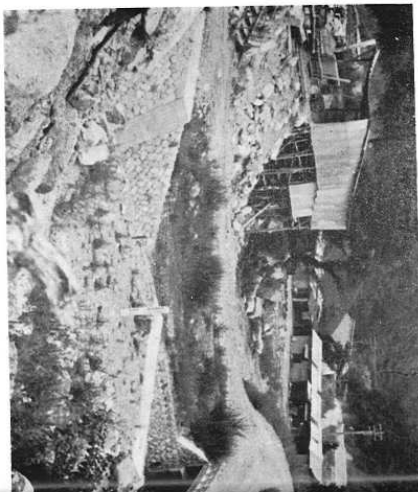
なお新宮川、百々目木川両河川の一部の地域は農耕地のほとんどが大災害をうけ、全く荒廃地と化したため、将来の生活等を考え現在、他（農務編に記載）の安全な地域へ集団移住を行っている。



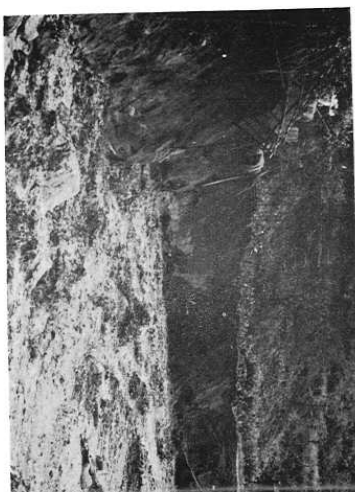
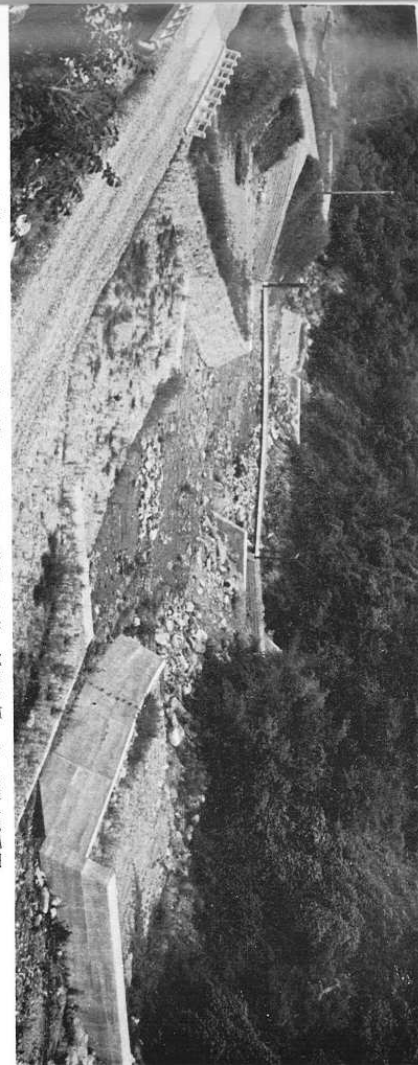
↑ 駒ヶ根市（新宮川の内股上流部被害状況）



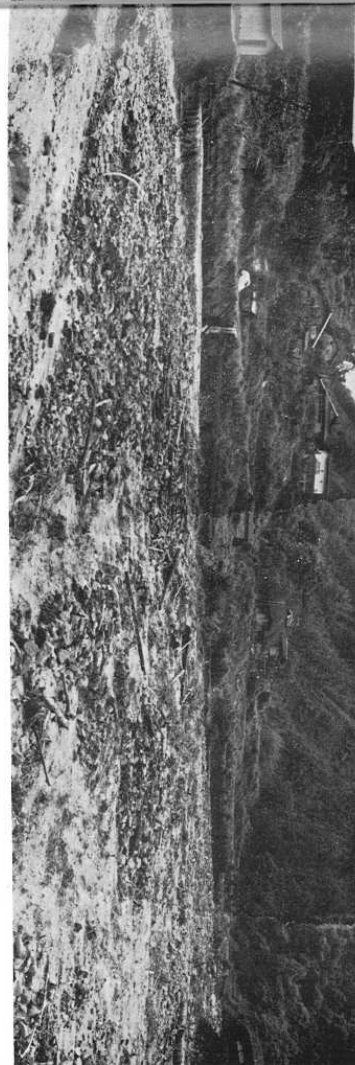
県工事 駒ヶ根市宇落合大橋（新宮川の内股上流部）



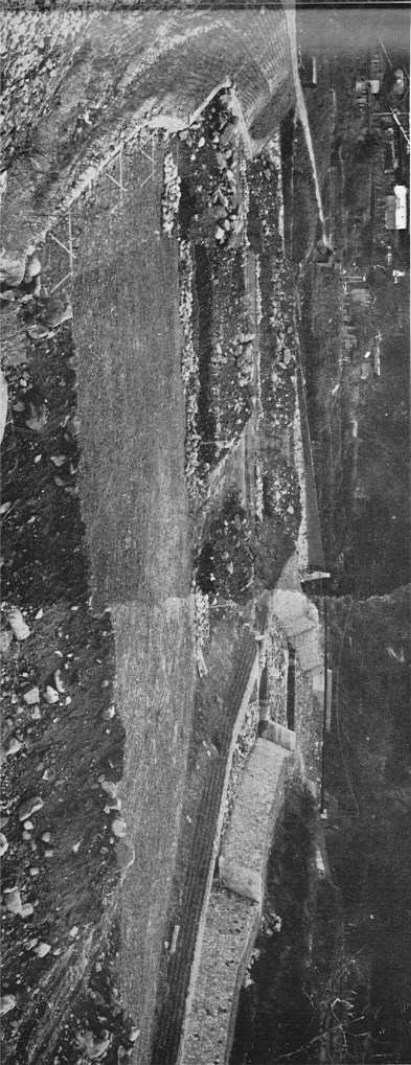
↑ 渡 工 流路工長L=2,268m 落差I73基 橋梁2橋 C=207,159千円



↑ 駒ヶ根市（百々目木川被災状況）



↑ 渡 工 流路工長=89.5m 落差I13基 道路築造式を含む工事費41,505千円



土 木 編

1. 主なる個所の被害状況

(イ) 新宮川水系（百々目木川を含む）

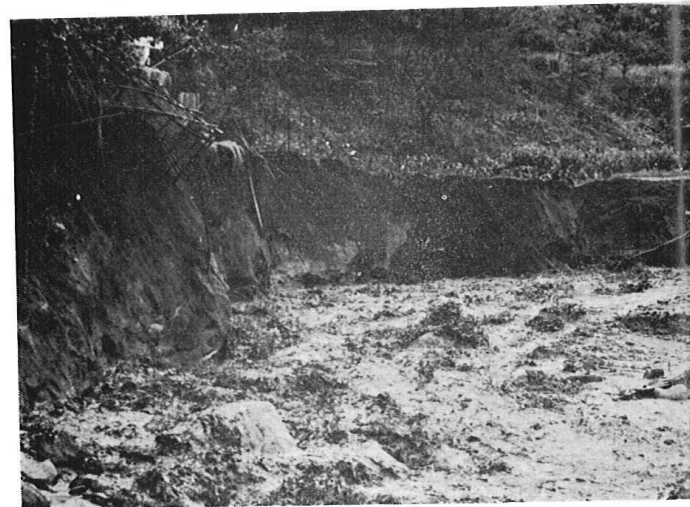
この河川は準用河川（現在1級河川）で延長9,500mあって、主なる支川は砂防河川の百々目木川で、延長は5,500mである。いずれも山腹の崩かいにより大量の土砂が流下したため破堤、護岸の欠壊等により道路、橋梁、家屋及び付近の農耕地を押し流し大きな災害をうけた、新宮川は延長9,500mのうち被災延長7,600mにおよび、この間県道粟沢～赤穂停車場線の一部や橋梁を含んでおり、又百々目木川も被災延長は4,300mにおよび、これも県道西伊那線の一部と橋梁を含んでいる。県工事の外に市町村工事として新宮川に唐山沢、百々目木川に新沢の2支川が大きな被害をうけた。

復旧工事は36年度から緊急箇所を実施し40年3月完成した。又36年度にはこの両川の山腹の崩かいが著しいので、災害復旧工事に他に緊急砂防工事を実施した。

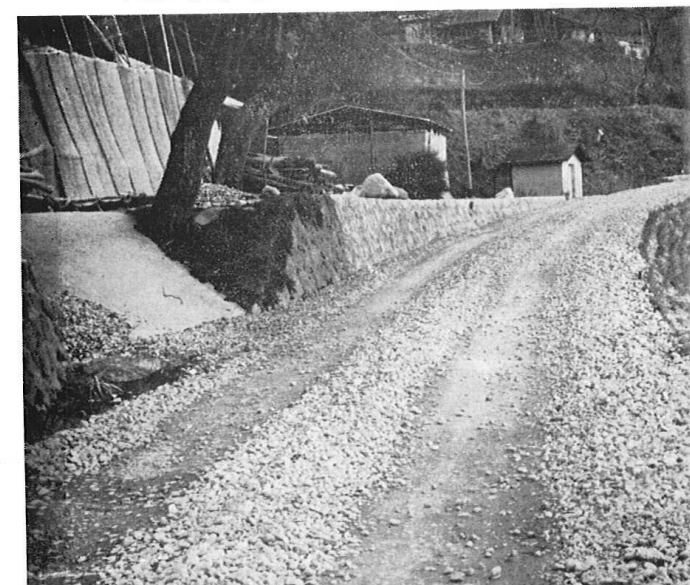
なお新宮川、百々目木川両河川の一部の地域は農耕地のほとんどが大災害をうけ、全く荒廢地と化したため、将来の生活等を考え現在、他（農務編に記載）の安全な地域へ集団移住を行なっている。



↑駒ヶ根市（新宮川の内最上流部被害状況）



↑駒ヶ根市（百々目木川被災状況）





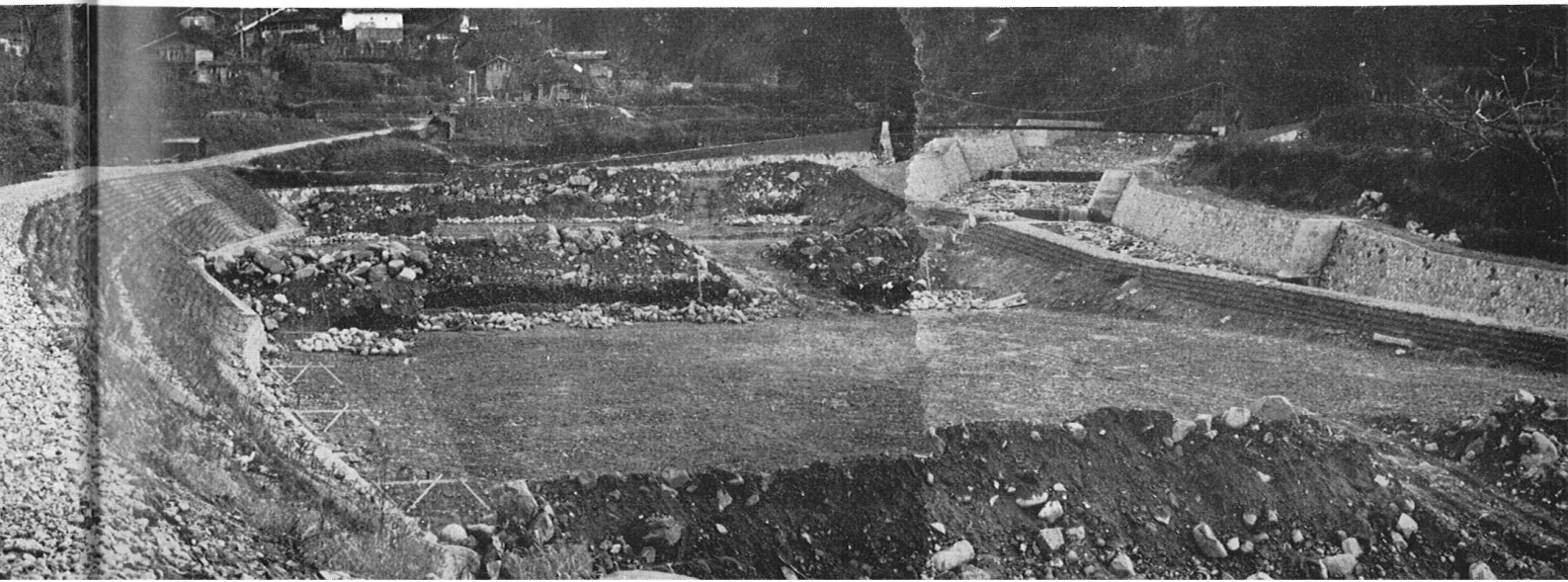
県工事 駒ヶ根市宇落合大洞（新宮川の内最上流部）



↑ 竣工 流路工長 $L = 2,268m$ 落差工73基 橋梁2橋 $C = 207,159$ 千円

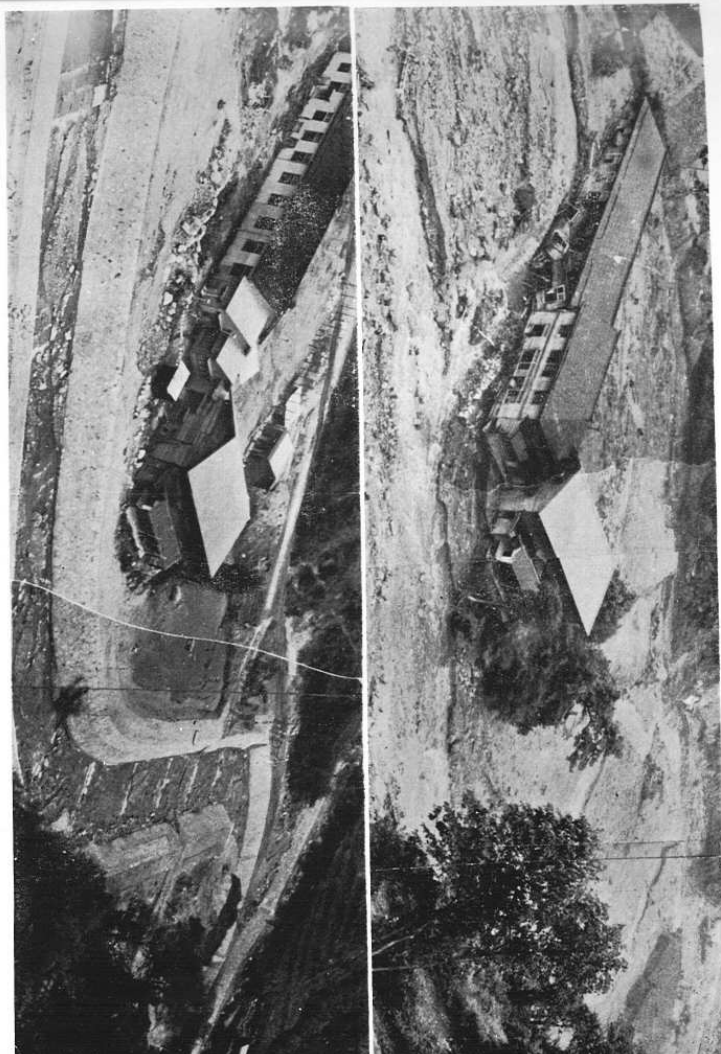
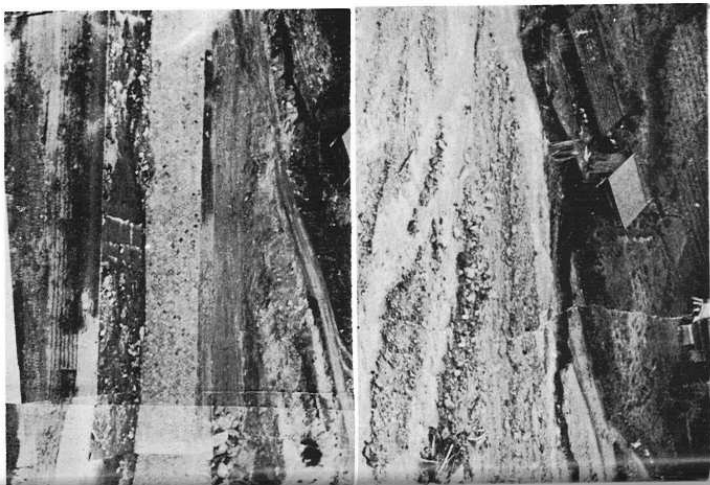


↓ 竣工 流路工長 $= 89.5m$ 落差工13基 道路築造式を含む工事費41,505千円

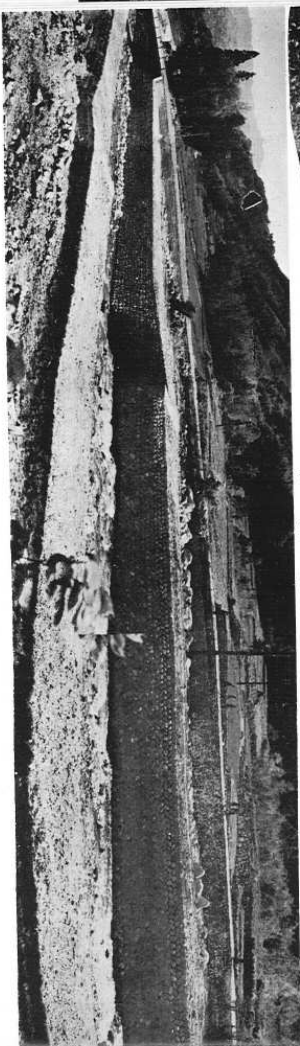


(ロ) 四 德 川

準用河川延長は 7,300m で、これに県道西伊那線が並行しているが、被災の延長は 6,500m におよび、河川構造物は勿論のこと、道路のほとんど、すべての橋梁を流失し、一面全くの河原の状態で、災害のひどさを物語っている。特に上流四徳地区は全戸数84戸のうちその約80%が流失、全壊又は半壊という被害をうけ、今回の災害の大きな特色であり又全国でも初めてのケースといわれる集団移住という問題がおきた。又下流桑原地区の一部も集団移住を行い、遠くは愛知県、近くは駒ヶ根市、宮田村等へ移住している。又小波川合流点より上流約2kmは(桑原～四徳渡間)現在着工している小波ダムの治水予定地域となっている。四徳川の復旧工事は集団移住により全戸移転したので、県道を主体とした工法で実施した。なお小波ダム治水区域の県道の付替工事を中部地方建設局で実施した。



↑ 竣工 69基
中川村 中通上前沢被災状況 工事費 132,072千円
↓ 竣工 1基
流路延長 2,380m
堤 1基
中川村 普工 69基
町村橋梁 5橋



【写真】↑(上) 中川村四徳分校付近被災状況

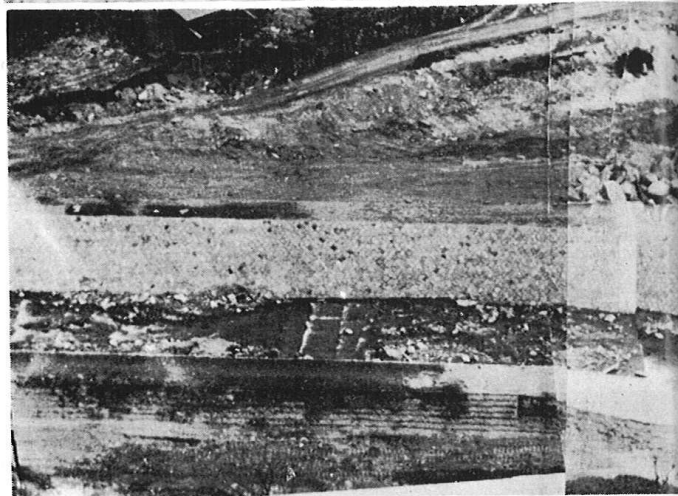
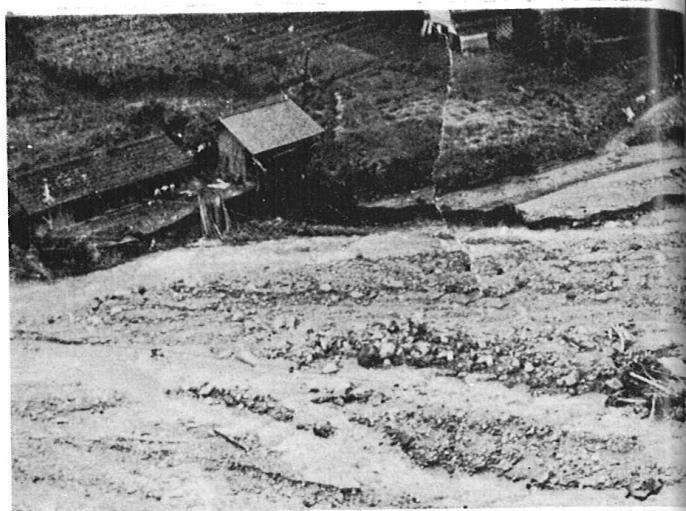
←(下) 同被災
築屋工長 4,472m
工事費 397,343千円
法 長 5.37~3.17m
落差工 28基
普工 169基
道路築屋工 3,973m

(ハ) 前 沢 川

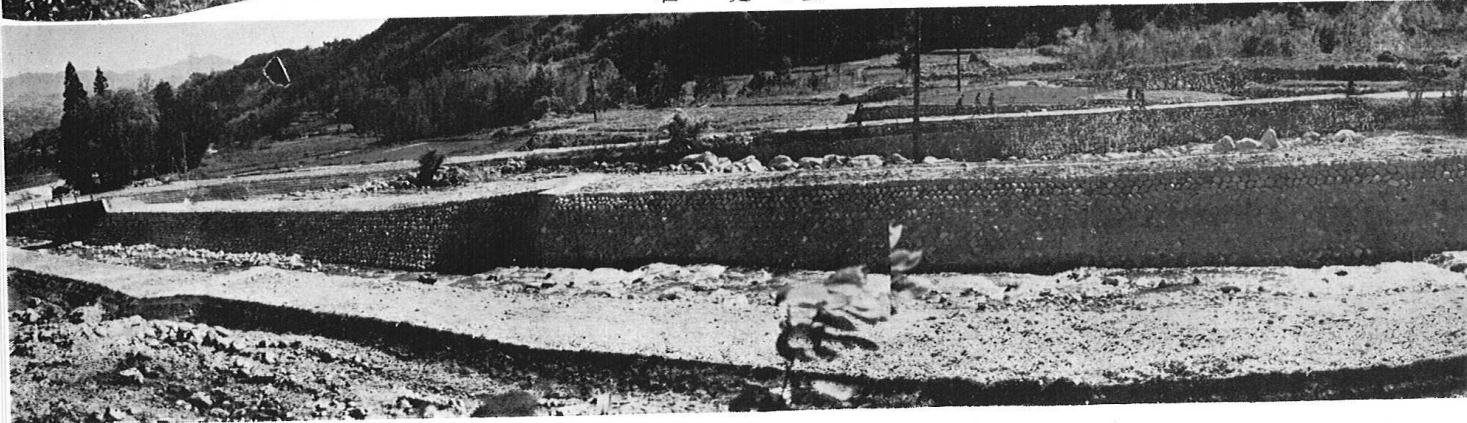
準用河川延長 7,638m で、支川日向沢川(準用河川延長6,308m)を合流して、天竜川に注いでいる。上伊那郡下の災害の殆んどが、天竜川の東側に集中しているが、この河川は天竜川の西側地区に於て、郡下最大の被害をうけた。被害は日向沢川との合流点付近約1.5kmで監視堤の真存個所もあり流路の修正、河槽の拡大継断勾配の調整等の目的で、郡下唯一の災害助成事業として採択され36年度から着工し、38年度において完結している。

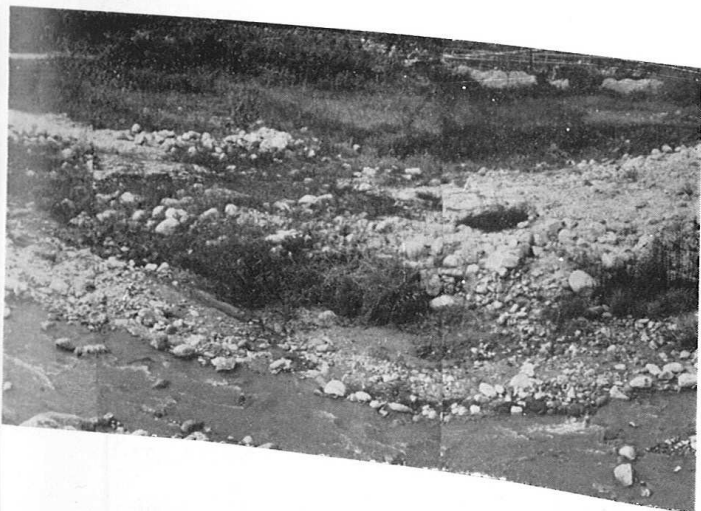
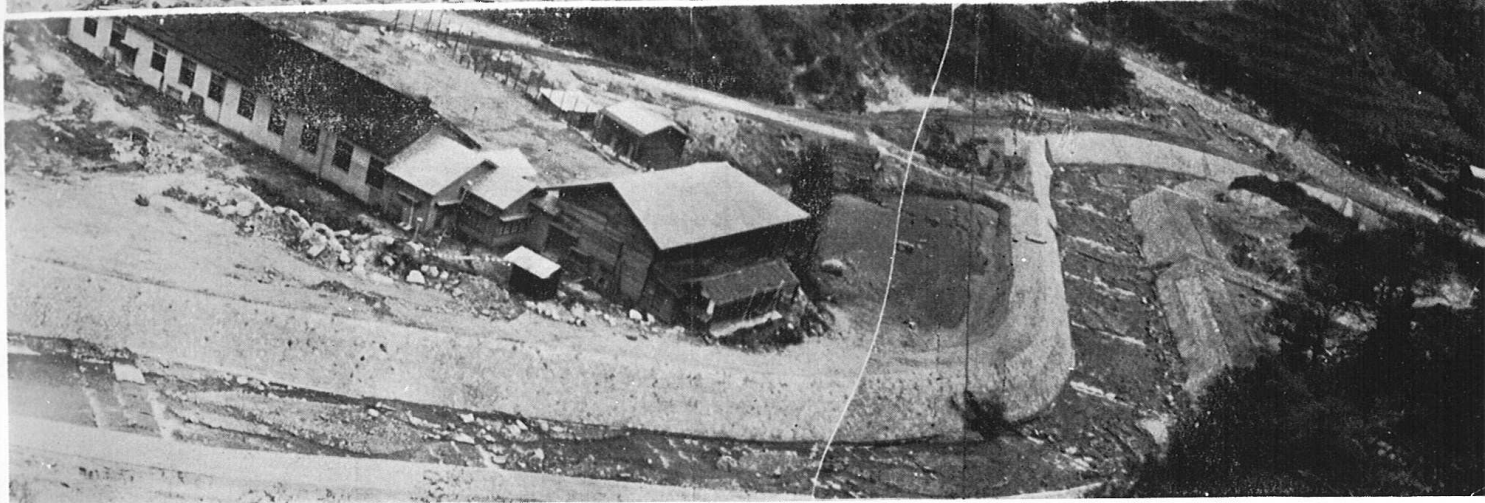
(口) 四 德 川

準用河川延長は 7,300m で、これに県道西伊那線が並行しているが、被災の延長は 6,500m におよび、河川構造物は勿論のこと、道路のほとんど、すべての橋梁を流失し、一面全くの河原の状態、災害のひどさを物語っている。特に上流四徳地区は全戸数84戸のうちその約80%が流失、全壊又は半壊という被害をうけ、今回の災害の大きな特色であり又全国でも始めてのケースといわれる集団移住という問題がおきた。又下流桑原地区の一部も集団移住を行い、遠くは愛知県、近くは駒ヶ根市、宮田村等へ移住している。又小渋川合流点より上流約 2 km は(桑原〜四徳渡間) 現在着工している小渋ダムの湛水予定地域となっている。四徳川の復旧工事は集団移住により全戸移転したので、県道を主体とした工法で実施した。なお小渋ダム湛水区域の県道の付替工事を中部地方建設局で実施した。



↑ 中川村 中通上前沢被災状況 工事費 132,072千円
 ↓ 竣 功 流路工長 2,380m 帯 工 69基
 堰 堤 1基 町村橋梁 5橋





【写真】↑(上) 中川村四徳分校付近被災状況
工事費 397,343千円

←(下) 同竣功 築堤工長 4,472m
法 長 5.37~3.17m
落差工 28基
帯 工 169基
道路築造工 3,973m

(ハ) 前 沢 川

準用河川延長 7,638mで、支川日向沢川(準用河川延長6,308m)を合流して、天竜川に注いでいる。上伊那郡下の災害の殆んどが、天竜川の東側に集中しているが、この河川は天竜川の西側地区に於て、郡下最大の被害をうけた。被害は日向沢川との合流点付近約 1.5kmで既設堤の残存個所もあり流路の整正、河積の拡大縦断勾配の規整等の目的で、郡下唯一の災害助成事業として採択され36年度から着工し、38年度において完結している。

表 4

36年度施工新宮川水系緊急砂防工事箇所表

河川名	長	高 (有効)	全体体積	本堤体積	工費	推定貯砂量
新宮川	96.0 ^m	13.5 ^m (10.0)	5,221.6 ^{m³}	4,246.5 ^{m³}	50,674 ^{千円}	84,286 ^{m³}
新宮川支唐山沢	58.0	15.3 (10.5)	2,081.4	1,660.9	18,446	21,211
〃 なぎ沢	50.0	13.9 (9.0)	1,446.6	1,198.4	13,540	12,796
小計			8,749.6	7,105.8	82,660	118,293
百々目木川	111.5	11.0 (9.0)	5,974.3	4,113.8	48,833	102,000
小計			5,974.3	4,113.8	48,833	102,000
計			14,723.9	11,219.6	131,666	220,293

表5 新宮川水系復旧概要

路河川名	箇所	復旧延長 (m)	復旧費 (千円)
県工事 新宮川	7	7,625.0	744,609
〃 百々目木川	6	4,333.0	390,648
市町村工事 唐山沢	1	740.0	63,441
〃 新沢	1	1,160.0	30,146
県工事 粟沢赤穂(停)線			
道 路	18	1,264.3	45,216
橋 梁	2	62.1	31,222
〃 西伊那線			
道 路	11	470.2	12,196
橋 梁	3	32.5	7,220
計			1,324,698

表6 四徳川水系復旧概要

路河川名	箇所	復旧延長 (m)	復旧費 (千円)
県工事 四徳川	2	5,403.0	468,721
市町村工事 番場入沢その他	14	727.4	32,131
県工事 西伊那線			
道 路	6	2,285.0	88,247
橋 梁	1	6.0	1,864
計	23	8,421.4	590,963

表 7

前沢川災害助成工事復旧概要

	全体工費	36年度 竣功額	37年度 竣功額	38年度 竣功額
事業費	132,012,599 ^円	56,577,000 ^円	29,453,000 ^円	45,982,599 ^円
災害費	96,191,359	49,069,492	16,804,170	30,317,097
助成費	28,228,229	7,507,508	10,660,661	10,060,060
その他費	7,593,011	—	1,988,169	5,604,842
工事概要	延 長 L=2,380m 石積法長 H=7.0~5.0m 床止工 3基 帯工 69基 付帯橋梁 (町村橋梁) 5橋			

(二) 飯田茅野線

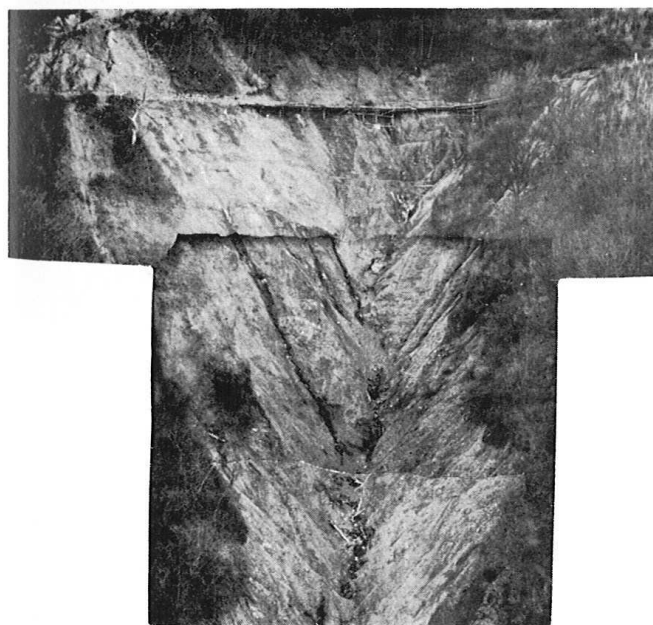
主要地方道であるこの路線は、管内延長37,460m（うち重用延長18,270m、実延長19,190m）で、36年度災害は全部長谷村に集中している。被害箇所は27箇所及び、至る処で道路は寸断され、仮道、仮橋、棧道によってかろうじて交通を確保することができた。特に長谷村粟沢地籍は、粟沢川(砂防河川)に並行しているため、この河川の多量の土砂流が道路、橋梁のすべてを押し流し、全長2,400mにわたって被災を受けた。この間の道路の縦断勾配は平均7%を越え極めて急なため、線形・勾配等数次の踏査、測量を行ったが、地形上良いルートが見つからず、止むなく粟沢川に並行する路線を決定し漸く37年度から着工し、40年3月完成した。



長谷村飯田茅野線被害状況

県工事 (主)飯田茅野線上伊那郡長谷村字粟沢
道路築造工 L=2400m 落差工29基
C=173,795千円

↓ 竣 工



竣 工

県工事 (主)飯田茅野線上伊那郡長谷村字大沢
道路築造工 L=103m W=5.0
C=12,729千円

長谷村飯田茅野線大沢地区被害状況

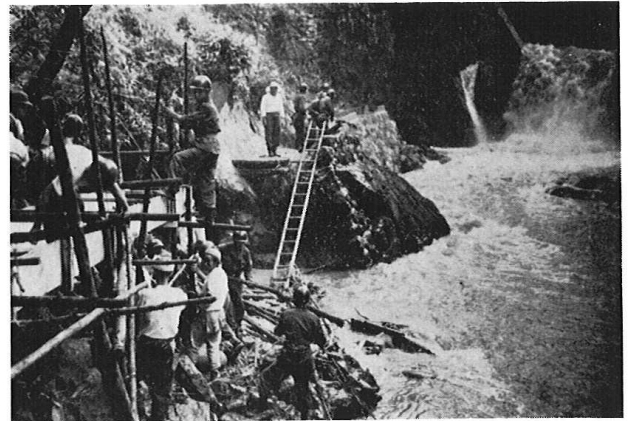
表 8
飯田茅野線の復旧概要

工 種 別	個所	復 旧 延 長 (m)	復 旧 費 (千円)
道 路	25	3,914.7	253,452
橋 梁	2	14.3	6,401
計	27	3,929.0	259,853

2. 復旧の状況

自衛隊活動状況

被災後は直ちに現地にも災害対策本部が設置され、災害救助法の発動、自衛隊の派遣申請の依頼、あるいは水防資材の確保、輸送等全県をあげてこの大災害に対処すると共に、関係機関の応援を得て、被災個所の応急措置を講じ、地域住民の民生安定と交通を確保すると共に、被害を最少限度に止めるべく努めた。この間、県内外の土木関係職員の応援も得て、8月中旬建設省の緊急査定をうけ、9月中旬より緊急工事の復旧に着手した。又同年12月残個所の査定を終り、全工事の復旧に随時着手した。着手後は設計技術者の不足、復旧資材の確保（特にセメント・石材）、労務者の問題（労働力の不足、これに伴う賃金アップ）等、幾多の問題が山積されたが、これらの一つ一つを克服し、40年3月漸く全工事の完成を見ることが出来た。復旧工事の概要は別表3の通りである。

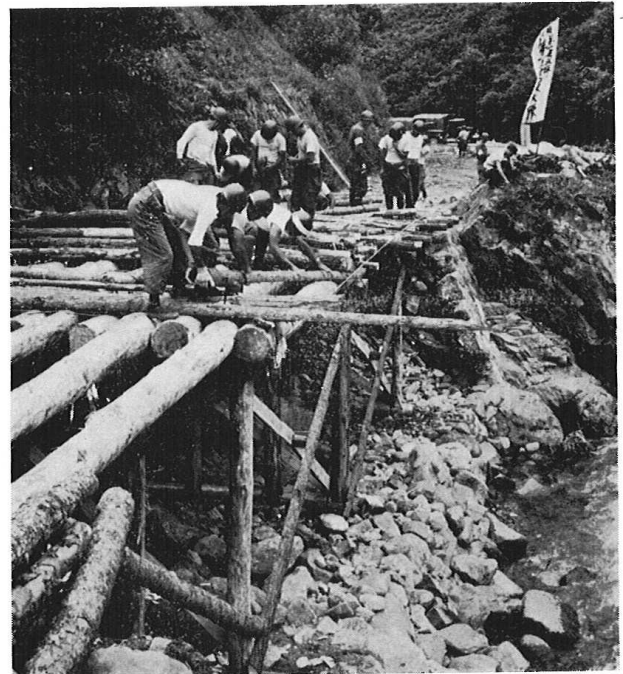


駒ヶ根市中沢 応急水路復旧作業



駒ヶ根市

新宮橋架設に向う自衛隊機動部隊



県道西伊那線南海機道 駒ヶ根市

応急道路復旧作業

表 3

公共土木施設災害復旧事業総計表

区分	原 決 定		39 年 再 調 査		し ゆ ん 功 額	
	個所	金 額	個所	金 額	個所	金 額
河川防砂道橋	230	1,994,263千円	228	2,024,920,211円	228	2,011,563,798円
	33	388,002	36	535,443,812	36	534,907,862
	160	540,247	133	612,542,167	133	600,931,462
	25	112,855	19	86,566,548	19	88,949,195
計	448	3,035,367	416	3,259,472,738	416	3,236,352,317
市町村工事	個所	金 額	個所	金 額	個所	金 額
河道橋	166	817,361千円	150	561,431,383円	150	560,546,383円
	218	208,937	215	212,572,695	215	212,317,695
	62	121,270	62	126,116,878	62	126,039,523
計	446	1,147,568	427	900,120,956	427	898,903,601
合 計	894	4,126,589	843	4,159,593,694	843	4,135,255,918

社会文教商工建築編

概 況

昭和36年6月の梅雨前線豪雨による郡下の惨禍は土木、農業、林業関係に甚大なる被害をもたらしたのみでなく、学校等の文教施設、社会福祉施設、商工関係および建築関係にもそれぞれ大きな被害を与えたのである。またこの災害により一般住民の生活にも致命的な影響を及ぼし、災害救助法の適用は勿論、各種の応急救助が実施されたのであるが、以下これを文教関係、厚生関係、商工関係および建築関係等に区別しその復旧状況を記述する。

別表 (4)
災害による応急仮設住宅設置状況 (県単を含む)

市町村名	応急仮設住宅建設数	払下げ当時の戸数	備 考
中川村	40	16	内24戸 駒ヶ根市へ
長谷村	2	2	
郡 計	42	18	
駒ヶ根市	20	44	内24戸 中川村から
合 計	62	62	

註 駒ヶ根市に建設したのは国の特別認可を得て団地を形成している。

別表 (3) 災害救助による救助概況 (県単独を含む)

救 助 別	救 助 数	救 助 費	
		救助法による	県 単 事 業
避 難 所 数	1 8 ケ所	40,899	円
避 難 所 収 容 人 員	31,414 人	—	
応 急 仮 設 住 宅 設 置 数	6 2 戸	4,774,000	円
炊 き 出 し 場 所 開 設 数	1 4 ケ所	—	
炊 き 出 し 給 食 人 員	31,414 人	442,356	
飲 料 水 供 給 日	2日 2 5 日	139,149	11日 44,394
被服寝具その他交付世帯数	8 2 2 戸	1,967,066	30戸 109,481
住 宅 応 急 修 理 戸 数	1 3 9 戸	570,216	
学 用 品 交 付 人 員	3 2 4 人	58,880	15人 3,347
教 科 書 交 付 人 員	1 4 4 人	73,795	
理 葬 件 数	1 6 件	32,000	
輸 送 費		48,700	
人 夫 費	6 9 人	90,240	
計		8,237,301	157,222

別表 (5) 陸上自衛隊派遣人員調

部 隊 名	所在地	期 日															計				
		6月		7月																	
		28	29	30	1日	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12		13	14	15	16
高田駐屯部隊 (第2普通科連隊)	高田	108	493	469	468	341	341	340	340	340	340	340	308	308	308	308					5,152
朝霞駐屯部隊 (第1建設群第102建設大隊)	朝霞町				50	50	50	130	180	180	180	180									1,000

別表(6)

ヘリコプター実動機数調

		6月30日	7月1日	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	21~28日	計
朝日ヘリコプター (基地伊那小学校)	実延	2 2	1 15										1 6					23
全日本航空 (同上)	実延		1 16	1 2														18
自衛隊機	実延			1 7			3 35	3 35	2 14	2 19	2 15	2 15						140
富士空輸 (同上)	実延		2 19	2 43														62
新日本航空 (同上)	実延							2 24										24
合計	実延		4 50	4 52			3 35	5 59	2 14	2 19	2 15	2 15	1 6					267

別表(7)

ヘリコプター輸送実績

(単位kg)

市町村名	人	米	みそ 醤油 塩	野菜	乾パ ン	麦類	その 他の 食糧	衣類	救助 物資	日用 品	薬品	C A C	器 材	建設 資材	復旧 資材	石油	その他	計
中川村	2	8,525	1,509	1,225	415	40	800		4,026	360	1,120	74		1128.5			6,763	25,985.5
長谷村		2,790		150	345			590									33	3,908
郡計	2	11,315	1,509	1,375	760	40	800	590	4,026	360	1,120	74		1128.5			6,796	29,893.5
計	2	11,315	1,509	1,375	760	40	800	590	4,026	360	1,120	74		1128.5			6,796	29,893.5



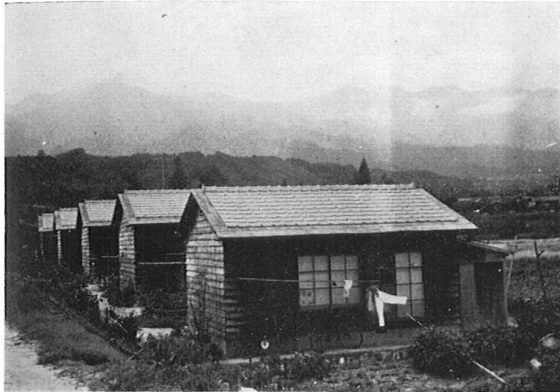
別表(1) 災害救助法発令市町村

発令日時	市町村名
6月28日 12時40分	中川村
" 18時50分	駒ヶ根市
6月29日 21時30分	長谷村
6月30日 21時30分	高遠町

1. 災害救助法等厚生福祉関係について

(1) 災害救助法の適用

駒ヶ根市外1町2村におよび、応急救助を実施し、また同法の基準に達しない被災町村に対しては、救助法に準じた救助を県単独で実施した。そして被災者の被災事情により避難所、応急仮設住宅等の設置、



【公 営 住 宅 (中川村前沢川沿岸)】



【自衛隊による死体発掘作業】

炊き出し、食品、飲料水、被服、寝具その他生活必需品の支給、児童生徒への教科書、学用品類の給与、



【仮 設 住 宅】

医療の給付、死者の搜索、死体の処理、埋葬、住宅の応急修理、物資の緊急輸送、人夫の備上げ等救助法による応急救助が全面的に実施された。

これ等応急救助活動は、県郡市町村の厚生関係職員を中心として行なわれたが、人手不足を補うため県の出先機関の職員、また自衛隊の応急的応援をえて、万全の配備のもとに実施され早急な救助の手が打たれ効果を収めることができた。



【駒ヶ根市原垣外に四徳移住者用に建てられた24戸の応急仮設住宅】



【婦人団体による急援物資の詰込み】

なお、また応急救助の内容によっては、一部に限り、被害市町村長にその実施を委任して、救助を災害の実情に即応させる処置もとられた。さらに被害事情が生活等に困窮を生じ、またはその他の援護を必要とする世帯、個人に対しては、生活保護法その他の社会福祉関係法等を適用するなどしてその救済に努め、その他の援護についての相談と更生指導にあたったのである。

(2) 被害の発生に伴う災害救助法発動

梅雨前線による豪雨は、駒ヶ根および上伊那地方に次々と大きな被害をもたらした。

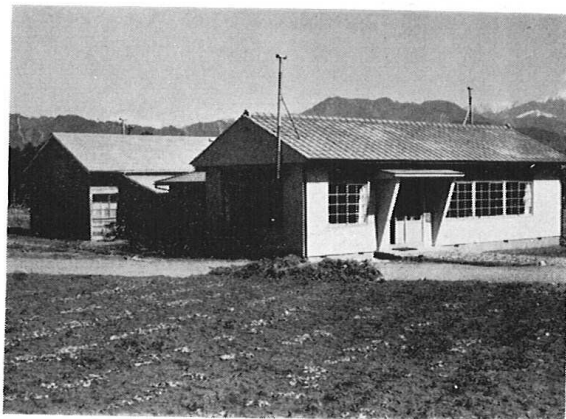
上伊那地方事務所に設置された、災害対策本部では各町村から刻々と被害報告を受けていたが、あらゆる手段と方法を用いて被害の収集通報に当たり、次々と災害救助法適用基準に達する被害の実態を把あくした順に、県知事より別表(1)のとおり災害救助法が発令された。



【自衛隊による架橋作業】

(3) 被災者の応急救助

災害救助法の発動に伴ない、被害状況を適確且つ迅速に把あくして応急救助活動を開始すると共に、別表(2)の被害状況の確定をみたが、救助内容並びに費用額については別表(3)のとおりであり、又設置した応急仮設住宅は別表(4)のとおりである。



【完成した原垣外職業補導所】

(4) 自衛隊の派遣要請と その活動状況について

36年6月の梅雨前線集中豪雨の被害は想像以上に

【急救物資を積んで四徳に飛来したヘリコプター】



【自衛隊による蛇籠作業】



【西沢知事に状況を説明する市長】



大きく、道路、河川の欠壊に伴う交通と絶、各村落等の孤立のため、被災地への食糧輸送、その他必需物資の補給など緊急に措置すべきことが山積しており、自衛隊の力が是非必要であったため、県は6月27日派遣要請をし、29日には高田の第2普通科連隊第2大隊108名、30日には385名増員、7月2日には朝霞の第一建設群第102建設大隊50名、5日には80名増員、7月13日までに延6,152人が災害救助あるいは応急復旧に従事し、復興の足掛かりをつけ、人心もこの自衛隊の活躍によって落ちつきを取り戻し、地元被災者の心からの感謝をうけた。

特にヘリコプターの活躍はめざましく、中川村外への交通杜絶の地へ食糧品、薬品等の輸送、又重傷者の輸送により、多くの人命が危機から脱したのである。

なお活動状況は別表(5)(6)(7)のとおりである。



【廊下に流入した木材】

(5) 罹災者の職業補導

罹災者が西大久保を初め各所に（移住欄参照）住宅を完成したが押し寄せる生活難に対処して県では老人と言えども職に就くことが出来るように駒ヶ根市原垣外地区に職業補導所を設置してブロック工、板金工、等を養成した。

2. 文教関係について

文教関係の被害は別表(1)に示すとおり、この地方

としては未曾有の大災害を受けその被害は郡下全市町村の大半である5市町村におよびその被害総額は22,320千円に達した。

この中で最も被害の大きな学校は、中川村の四徳分校で、校舎の流失495㎡半壊705㎡で運動場の3,060㎡は河原と化し見るも無惨な姿と変わり授業が出来なくなったため中川村大草の伊南社に寄宿して本校に移転就学のやむなきにいたりしました。

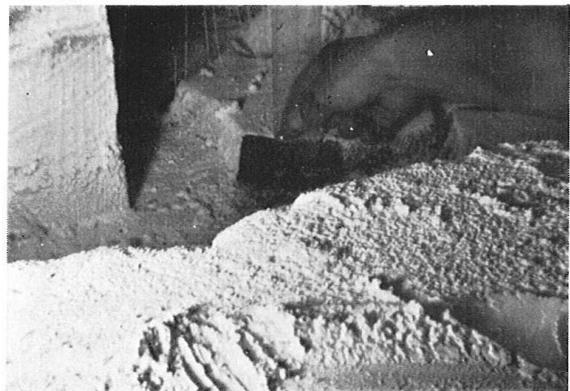
なおこのような施設被害ばかりでなく、最も痛ましい惨事は荊口、芝平、桑原、東校の各分校に別表のとおり学童5名の尊い生命が犠牲となり、2名の



【黒板の下まで土砂流入した教室】



【 四 徳 】



【伊那里小学校体育館床下に流入した土砂】

重傷を負う悲しい事態を惹き起こした。

ここに改めて哀悼の意を捧げる次第であります。

対 策

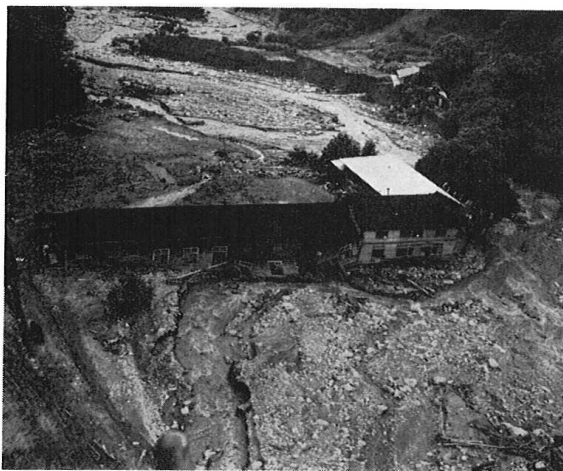
このような大災害に対処して、関係市町村ではそれぞれ速やかに応急措置を講じ、教育に支障のないよう配慮し、復旧事業を実施した。

その間において四徳分校は同年8月16日長谷村伊那里小学校は8月22日に文部、大蔵両省から係官が来校し、公立校施設災害復旧国庫負担法の適用による補助申請について査定を受けた。

これらの学校の具体的な応急措置及び対策は次のとおり行なわれた。

(1)中川村四徳及桑原分校

中川村東中学校の四徳桑原地区の中学校生徒30名(男8名女22名)を本校近くに在る元製糸工場伊南社の建物を急改造し寄宿舎として収容させ、本校において授業を行なった。これに要する経費、物資についてはそれぞれ次のとおりに措置した。



給 食 物 資

寄宿のために要する小麦粉1人1食140g 1日280gの30人分を増配する。脱脂ミルク1日1人27g30人分増配する。

寄宿舎の舎監手当、炊事婦給与、運営費、設備施設については経費を積算して、別に財政措置を講ずるよう県教育委員会に対して要請した。

(2)東小四徳分校

中川村東小学校四徳分校では、同部落の集会所、校舎の一部(体育館)及び民家2戸を仮設教室として7日から児童を集め授業を再開した。そしてこの仮設教室に対する県又は国の補助申請手続をとった。

其後四徳部落の全戸移住が決定し、93戸の農家が逐次安全な地を求め、伊那市、宮田、駒ヶ根、その他の市町村に移住し、家屋も破壊され住む人としてなく一時的には先生1人生徒1人と云う時もあったが、殆んど廃校となり、現在では住む人もなき四徳谷間の河原に一棟の校舎がぼつねんと寂しい姿を残しているのみである。

(3)伊那里小中学校災害及び復旧工事本校々庭に820m²の土砂流入、体育館ほか校舎の床下にも実に多量の土砂が流入した。

また附近の民家から汚物が土砂に混って流れ込み衛生上誠に悪い状態となった。

この被害167万円を直ちに国庫補助申請するとともに7月12日から15日迄に村直営工事として汚物混入の土砂を処理した。

(4)なお全災害を受けた学校に対し地教委を通じそれぞれ次のように処置した。

(A)災害学校生徒児童に対し、脱脂ミルク児童1人229g生徒1人279gを無償配布するよう手続をとった。

(B)寄宿設置のため必要な次の衣料及び内部設備費を日赤支部等に発送依頼した。

毛布30 シーツ30 敷布30 現金1万円等である。

(C)住宅等の被害を受けた教員に対しては状況調査の結果、共済見舞金を支払うよう要請した。

(D)罹災児童生徒に対する教科書の無償配給の手続をとった。

(E)各学校が伝染病予防のために行なう日常の消毒薬については、伝染病予防法第16条第1項の規定適用により配給するよう保健所とも協議して措置した。

(F)災害学校及び教員住宅復旧に要する木材を国から払下げる処置をした。

(G)災害再発の危険のある高遠小学校芝平分校及び教員住宅に対しては避難又は危険状態から脱するまで休校手続をとった。

(H)災害学校の給食設備を日本ユニセフ協会から貸与されるよう処置した。

表 1

文教関係災害概況表

区分 市町村名	人的被害			学 校 施 設								公 民 館		千円	
	死者	行方不明	軽傷	流 失		半 壊		床下浸 水面積	設 備		そ の 他		床上浸水		
				面積	金額	面積	金額		金額	内容	金額	内容	面積		金額
高 遠 町	三義小3				千円				千円		千円	石垣沢 壊土砂 400m ²		千円	200
飯 島 町							150m ²								
中 川 村	中川桑原 東小分校 1		中川東中 1	m ² 495	1,400	m ² 709.5	10,500		3350	運動場 流失 3630	5,000	職員住宅 流失 2戸66m ² 職員住宅 半壊 2戸148m ²			20,250
長 谷 村											1,670	土砂流入 伊那里 小・中 4300m ² 2400m ²	2件 (分館) 528m ²	200	1,870
駒ヶ根市		中沢東 小分校 1	中沢小 1					729m ²		水道 損害		職員住宅 床下浸水 2戸			
計	4	1	2	m ² 495	1,400	m ² 409.5	10,500	2件 m ² 879	m ² 3350	m ² 3630	3件 6,870		2件 528m ²	200	22,320

表 2

罹災教員ならびに児童生徒数調

	教員罹災者数				児童生徒罹災者数								
	流失	全壊	半壊	床上浸水	流 失		全 壊		半 壊		床上浸水		
					小	中	小	中	小	中	小	中	
伊 那 市			1										
駒 ヶ 根 市	1		1		15	13	14	13	24	11	3	1	
高 遠 町							4	3	4	2	29	19	
辰 野 町													
箕 輪 町									1	2			
飯 島 町					3	2	1	1			1	1	
南 箕 輪 村													
西 春 近 村													
中 川 村	4			1	37	17	18	12	42	39	83	28	
河 南 村													
長 谷 村			1		3	1	7	8	8	5	59	24	
宮 田 村													
計	5		3	1	58	33	45	39	78	57	175	73	

災害による死亡児童生徒氏名

学 校 名	学 年	性 別	氏 名	備 考
高遠町三義小学校 (荊口分校)	1	男	北原 美登	7歳
〃 (芝平分校)	6	女	北原 里美	11歳
〃 (〃)	3	男	北原 友一	9歳
中川村中川東小学校 (桑原分校)	6	女	中島 千文	12歳

災害による行方不明児童生徒氏名

学 校 名	学 年	性 別	氏 名	備 考
駒ヶ根市中沢小学校 (東分校)	3	男	双山袈裟男	8歳

3. 商工関係について

上伊那郡下の被害状況が天竜川東部に被害が多く、その被害は中川村を始めとして各市町村に及んだが、商工業の集団地、及び生産地を外れたため直接的な

被害が比較的少なくて済んだのは不幸中の幸と言うべきであった。

(1) 災害の概況

商工業関係企業の被害総額は1億3,113万余円、被害件数 114件に達し中川村四徳中組福親部落、駒ヶ根市中沢上割部落の被害が特に大きく高遠町、長谷村、飯島町、伊那市、宮田村、辰野町も若干の被害を受けている。これを業種別にみると別表(1)(2)のとおりである。

(2) 災害対策

災害発生と同時に被害内容を調査し、市町村および商工会議所、商工会と連絡をとり店舗、工場の修理新築等復興指導を強力に推進するとともに復興資金の融資を計るため国民金融公庫、信用保証協会の協力を得て設備資金、運転資金などを融資するため金融相談所を開設して個々の相談を行った。その概況は別表(3)のとおりである。

別表(1)

商業関係被害総額

市町村名	被害内容区分					①家屋 被害額	②その他の被害額					①+② 合計	③間接 被害額	①+②+③ 計
	流失	全壊	半壊	床上 浸水	床下 浸水		機械	製品	原材料	商品	施設			
伊 那 市	2				1	千円 100	千円	千円	千円	千円 400	千円 13,000	千円 13,500	千円	千円 13,500
駒ヶ根市		4	3	2	1	5,200	625	280	170	1,182	1,170	8,627	5,270	13,897
飯 島 町					11	185						185		185
中 川 村	13		3	4	18	5,000	700	851	2,984	3,640	3,540	16,715	2,731	19,446
高 遠 町	1								800		1,500	2,300	500	2,800
長 谷 村			2	7		1,280			15	800	260	2,355	555	2,910
計	16	4	8	13	31	11,765	1,325	1,131	3,969	6,022	19,470	43,682	9,056	52,738

別表(2)

工業関係被害総額

市町村名	被害内容区分					①家屋	②その他の被害額					①+②	③間接	①+②+③
	流失	全壊	半壊	床上浸水	床下浸水	被害額	機械	製品	原材料	商品	施設	合計	被害額	計
						千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
伊那市	1				1	300		300	400			1,000		1,000
駒ヶ根市	4	8	1			5,190	2,110	715	7,225	559	1,580	17,379	5,200	22,579
辰野町	1					100	20		135		50	305	800	1,105
宮田村	1								1,350		1,540	2,890		2,890
飯島町	3					2,125	6,230		7,550		400	16,305	2,130	18,435
中川村	3		1	1	1	1,930	180		390	810	1,310	4,620	2,880	7,500
高遠町	4	1		1	2	100	2,340		4,680	130	7,310	14,560	9,530	24,090
長谷村					1	50	50				550	650	150	800
計	17	9	2	2	12	9,795	10,930	1,015	21,730	1,499	12,740	57,709	20,690	78,399

別表(3) 災害復旧資金融資あっせん状況
(単位千円)

種別 市町村	あっせん 額	あっせん額内訳	
		国民金融公庫	県制度資金
中川村	10,100	6,750	3,350
駒ヶ根市	1,400	1,400	—
計	11,500	8,150	3,350

た。

なお、不動産取得税については、罹災家屋、及び土地の代替取得について、被災時を起点として満3カ年以内の取得の場合、全額免除の措置をとっている。

この状況は別表(3)のとおりである。

別表(1) 県税減免、納入義務免除の状況

税目	納税者数	件数	減免額	備考	
個人県民税	450	774	64,110		
内 訳	駒ヶ根市	170	151	20,830	
	高遠町	5	23	830	
	飯島町	22	12	3,370	
	中川村	210	520	30,820	
	長谷村	43	68	8,260	
個人事業税	6	12	51,480		
不動産取得税	1	1	2,650		
料理飲食等消費税	1	4	4,176		
自動車税	2	2	3,750		
合計	460	793	126,166		

4. 県税関係災害対策

県税関係の被災者に対する応急措置は、県税条例による税の減免、納期限の延長、徴収猶予、換価猶予等で、災害が発生するや速やかに、被害状況を調査して、減免対象者を把握するとともに、個人事業税、自動車税の減免、料理飲食等消費税の納入義務の免除等を、実施した。

この状況は別表(1)のとおりである。

また、納期限の延長については、被害の最も甚だしかった中川村、駒ヶ根市、高遠町等につき、個人事業税(前期分)の一ヶ月延長を行なったほか、料理飲食等消費税についても、同様の措置をとった。

(別表(2)参照)

このほか、個人県民税についても市町村民税と同様、駒ヶ根市外4ヶ村において減免措置が行なわれ

別表(2) 納期限の延長および徴収猶予の状況

税 目	納期限の延長 (1ヶ月)			徴収猶予		
	納税者数	件数	税 額	納税者数	件数	税額
個人事業税	338	338	1,442,840	—	—	—
料理飲食等 消費 税	76	76	346,201	—	—	—
自動車 税	—	—	—	3	7	58,830
合 計	414	414	1,789,041	3	7	58,830



被災者の生活相談（駒ヶ根市）

別表(3) 代替不動産の減免状況

年 度	土 地		家 屋		備 考
	件数	税 額	件数	税 額	
37年度	—	—	1	9,480	
38年度	1	1,360	10	36,040	
39年度	4	12,200	6	13,310	
合 計	5	13,560	17	58,830	

なおこの災害復興住宅資金については、各市町村とも債務保障をなし、被災者はこのために融資額の60%を工事着手前に融資が受けられることとなったので、住宅の復興は一層促進されることとなった。建物の被害状況と復興状況は次表のとおりである。

5. 建築関係について

被害の早期復興を計るため、先ず応急仮設住宅を駒ヶ根市外二ヶ村に県費補助住宅を伊那市外四ヶ市町村にそれぞれ建設し続いて災害公営住宅を駒ヶ根市外二ヶ村に建設する一方県単融資にかかわる住宅改造を伊那市外七ヶ市町村に実施した。

また、住宅金融公庫の資金による災害復興住宅として、建設、補修あわせて伊那市外七ヶ市町村に建設復興した。

これら、応急仮設住宅県費補助住宅災害公営住宅、災害復興住宅などは、ただちに復興建設に着手され36年12月までには、その80%が完成をみるに到り、37年3月末にほぼ計画を達成することができた。

住宅金融公庫による災害復興住宅については、一部移住関係を除き10月に認定をほとんど終り、36年12月までには40%の復興をみるまでに到った。しかし冬期間の悪条件や自己資金の関係、これに加えて、災害の特殊性ともいえる移転問題などもからんで、復興が遅れがちな傾向もあったが、37年に入って2月頃から、敷地の確保なども出来て、復興の槌音も力強く急ピッチに工事が進められ5月始めには一部を除いてそのほとんどが完成を見るに到った。

建物の被害状況と復旧状況調

区 市 町 村 別	建物の被害状況						一般災害復旧住宅状況					住宅金融公庫災害復旧住宅状況						
	全壊 戸数	流失 戸数	半壊 戸数	浸水		合計 戸数	災害 公営住宅	県費補助 住宅 (災害分)		応急 仮設住宅	住宅 応急修理	住宅 改造	災害復興住宅 認定件数			貸付承認 (件数)		
				床上 戸数	床下 戸数			厚 生	公務 員				建 設	補 修	計	建 設	補 修	計
伊那市				24	416	440			1			87	4	14	18	29	1	30
駒ヶ根市	34	31	35	4	15	119	18	8		44		52	73	9	82	68	2	70
辰野町			2	19	102	123						9	3	5	8	0	0	0
箕輪町	1				76	77						59	1	5	6	0	0	0
高遠町	4		2	46	149	201						33	11	4	15	8	2	10
飯島町	2	5		7	253	267		4	1			37	7	0	7	10	0	10
南箕輪村					2	2						25	0	0	0	3	0	3
西春近村				1	50	51							0	1	1	1	0	1
宮田村					13	13		4					0	0	0	14	0	14
中川村	27	70	34	37	127	295	30			16		52	162	19	164	16	10	26
河南村					2	2							0	0	0	0	0	0
長谷村	9	9	12	78	45	153		1		2			42	3	45	4	2	6
計	77	115	85	216	1,250	1,743	48	17	2	62		354	303	60	363	153	17	170

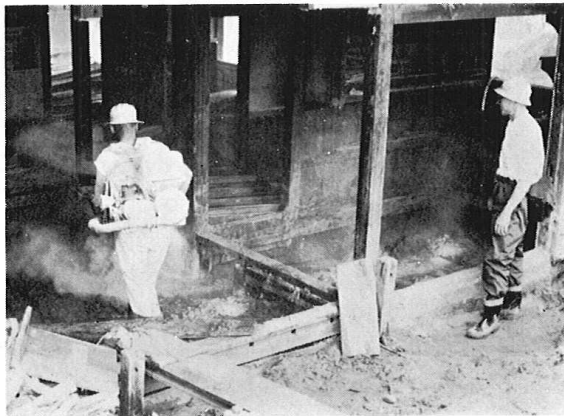
(但し駒ヶ根の応急仮設住宅44戸のうち24戸は中川村からの移住用)

概 況

災害に対する防疫医療関係は、伊那保健所が担当。県関係職員の派遣を受け防疫態制の確立を図り、又日赤長野県支部、信州大学医学部および隣県（埼玉県）の医療関係機関の応援を得て組織的な医療救護活動を展開し、飲料水の供給確保、ろ水機の輸送、浸水家屋の清掃、消毒、検病調査、医薬品の供給、被害食品、営業者の環境の指導、水道施設の復旧、防疫活動を実施した。

保健所関係被害額

総 額	11,532千円（再掲）
内 訳	
水道関係	5,528千円
その他	6,004千円



浸水家屋に対する消毒（駒ヶ根市）



貯水接合井送水管被害状況
（中川村大草中組水道）



東京公衆衛生技術学校生徒による
リハツ奉仕隊の活躍



崩壊流失した水源池と接合井
（飯島町日曾利水道）

保健予防関係被害、防疫活動状況

36.7.9現在

市町村名	赤痢患者数			前年赤痢患者数			医療救護活動地区名	給水班の活動地区名	保健所防疫活動している	本庁防疫従事者数	保健所防疫班従事者数	検査調査戸数	細菌検査実施件数	消毒を行った戸数	消毒を行った井戸数	そと族昆虫駆除を行った戸数	集団避難所の総数	集団避難所の収容人員
	真症	疑似	死亡	真症	疑似	死亡												
伊那市	1								3	3	29	1,796		990	7			
駒ヶ根市							中沢	中沢	3	2	66	2,324		1,637	50	1,056		
高遠町	22								4	4	60	1,979	956	813		746	6	141
箕輪町									4		24	1,548		1,174	11			
飯島町								日曾利	5	4	71	2,343		1,510	107	386	2	192
西春近村	1								3		8	256						
中川村							大草、四徳	四徳、大草	8	1	66	2,295	14	2,141	273		25	2,255
長谷村									8		64	933	1	1,048	73	1,016	12	3,290
計	23	1		11					38	11	388	13,474	971	9,313	521	3,204	45	5,878

環境衛生関係被害状況

水道関係				井戸(横井戸を含む)					
市町村名	水道名			被害額	市町村名	被害状況			
	水道名	水道名	水道名			流失	埋没	汚水流入	合計
伊那市	伊那市営水道	尾町簡易水道	708千円	伊那市	28	29	13	4	4
	高尾町簡易水道	650	46						
	中条簡易水道	1,990							
	与洗簡易水道	100							
	滝地簡易水道	50							
	南山福地簡易水道	8							
	小沢、沢尻簡易水道	8							
3,704	190	42		46					
駒ヶ根市	中沢簡易水道	296	駒ヶ根市	4	2	30	7	7	
	東伊那簡易水道	230							
526									
高遠町	弥勒簡易水道	60	高遠町	70	23	32	125	36	
	片倉簡易水道	23							
	高遠水道消費生活協同組合	153							
236									
辰野町	辰野町上水道A地区	398	辰野町	7	9	20	36		
	神戸簡易水道	40							
438									
飯島町	日曾利簡易水道	100	合計	109	67	168	344		
中川村	片桐中央水道	175	中川村	7	9	20	36		
	中組簡易水道	115							
	290								
長谷村	伊那里第一水道	234							

食品衛生営業関係施設被害表

区分	市町村	流	全	半	浸水		計	業種別								計		
					失	壊		壊	床上	床下	飲食店	菓子製造	魚販売	豆腐製造	菓子販売		アイスクリーム、牛乳販売	アイスクリン製造
災害区分	適災害救助法	駒ヶ根市				5	6	11	1	1	1	1	4	3				11
		高遠町					15	15	2	1	3	1	3	5				15
		中川村	2	2		2	17	23	5	4	6	1	3	4				23
		長谷村			2	3	10	15	4		3	1	2	4		1		15
		箕輪町					9	9	1	1	1		3	3				9
	飯島町					22	22	5	4	1	1	4	6	1				22
計		2	2	2	10	79	95	18	11	15	5	19	25	1	1		95	

環境営業関係罹災状況

区分	罹災者数	附記
旅館業者	4	半壊1、流出1、床上浸水1、床下浸水1
公衆浴場	1	流出1
理容業	4	床下浸水3、半壊1

火葬場、倒壊1、高遠町営火葬場、土砂流入倒壊

ろ水機の活動状況

使用開始	機械の所有者	貸与先	使用地区戸数、人口	機械名	機数	給水人口 (住民見舞人、消防団、 救助隊員を対象とする)
6月30日	伊那保健所	駒ヶ根市	中沢部落 95戸 458人	手動ろ水機	1	458人
7月1日	松本保健所	飯島町	日曾利部落 54戸 317人	動力ろ水機	1	317
7月1日	伊那保健所	中川村	南方部落集団 150人	手動ろ水機	1	150

薬品の備蓄供給（ヘリコプター投下分）

月日	所属名	基地名 (発)	基地名 (着)	運行先	数量	品名
7月1日	朝日ヘリコプター 1機	伊那基地	中川村中学校 1時～6時	四徳	4梱	1梱の内容品 脱脂綿50g×3、腹痛薬2、 解熱薬2、ガーゼ1m×3、 ホータイ大5・小5、クレ オソート2、ヨーチン25g ×1、マーキユロ25g×2、 頭痛薬2 計9品目
"	"	"	"	桑原	1梱	
7月6日	自衛隊機 1機	中川東中学校 8～9時	四徳の河原	四徳 下村部落	1梱	伊那保健所所有 ろ水機1機(20kg) 性能 1時間当 120ℓ可能

農 業 編

1、農務関係について

(1) 農作物関係被害状況

種 類	被 害 面 積	被 害 金 額	備 考
水 稲	750.2 ^{ha}	185,179 ^{千円}	
小 麦	238.8	15,790	
豆 類	102.0	6,478	
そ さい 類	13.6	1,628	
果 樹 類	3.5	2,990	
い も 類	61.9	7,900	
工 芸 作 物	9.5	5,859	
畜 産 関 係	乳牛13 役牛30 畜舎230棟	28,269	
水 産 関 係	養殖鮭 1,890千円 河川鮭 14,300 "	16,569	養殖施設 379千円
農業共同利用施設	有線放送施設 5ヶ所 倉庫等建物 17棟	26,814	他に機械類
総 計		297,476	

(2) 緊 急 対 策

(イ) 食糧緊急対策

交通を途絶し孤立した中川村四徳及び駒ヶ根市中沢の奥地長谷村の浦地区外11地区に対しヘリコプターによる食糧緊急輸送を行ない更に山頂を越えて人力負荷で救援を行なった。その主なるものは

	中川村	駒ヶ根市	長谷村
精 米	166俵	43俵	147俵
乾パン	2,200袋 (44,000食)	—	345kg



【ヘリコプターによる食糧緊急輸送】

(ロ) 農作物病害虫及び家畜伝染病予防対策

冠水田の病害虫防除のため県有防除機具を緊急総動員し被災地全域を一斉防除を行なった。また不足農薬を緊急手配により3,379kgを現地に急送した。

(ハ) 指 導 対 策

農業改良普及員及び農協技術員が一丸となり更に家畜保険衛生所が中心となり畜産技術者等による指導救護班を編成し被災者の農作物家畜衣食住等生活指導を徹底して行なった。又激甚部落に対しては飼料対策として輸入フスマ1,545袋を配布した。

(ニ) 代作用種子種苗対策

土砂流入埋没田畑に対する代作用種子及び植かえ用種苗を緊急手配した。

主なるものは稲苗21,453束を郡内郡外より導入し駒ヶ根市、飯島町、伊那市等に配布した。種子とうもろこし22俵、大豆55俵、そば2.5俵等を駒ヶ根市、飯島町、中川村、長谷村に配布した。

(ホ) 資金及総合対策

(A) 天災法による融資金	41,260千円
(B) 災害対策事業補助金	55,296 "

内 訳

総合対策事業補助金	7,306	〃
激甚部落共同利用施設補助金	6,479	〃
共同利用施設復旧事業補助金	5,568	〃
飼料作物再播種事業補助金	43	〃
飼料緊急輸送事業補助金	73	〃
(C) 農業共済金	22,640	〃
(内早期内渡金額)	13,187	〃

上記の制度金融による融資及び補助金等の措置を実施し復旧の促進と民生安定をはかった。

2. 被災者の集団移住

激甚地被災の中川村四徳、駒ヶ根市中沢、長谷村前浦等においては、耕地災害復旧の査定も終わったが、その後情勢が変化し故郷を捨てて安住地を求め他に移住希望が続出し、生活する為に復旧が不可能となったため、郡内郡外に余裕地を県が調査計画し集団移住地を造成した。

集団移住計画

伊那市野底地区	20戸	長谷村前浦より全戸
宮田村西大久保地区	19戸	中川村四徳より13戸 下伊那郡大鹿村より6戸
駒ヶ根市森下地区	2戸	下伊那郡大鹿村より
〃 宮の北地区	10戸	同上
〃 馬住原地区	14戸	下伊那郡大鹿村より12戸 中川村四徳より2戸
〃 原垣外地区	47戸	下伊那郡大鹿村及び 駒ヶ根市中沢等より

計 112戸の外、県外移住とし愛知県西加茂郡猿投第二地区に中川村桑原及び滝沢部落から6戸が移住し現在これらの人達は成功の域に達しつつあり、一応各移住者も安定した生活に這入っている。



【中川村四徳移住記念碑】

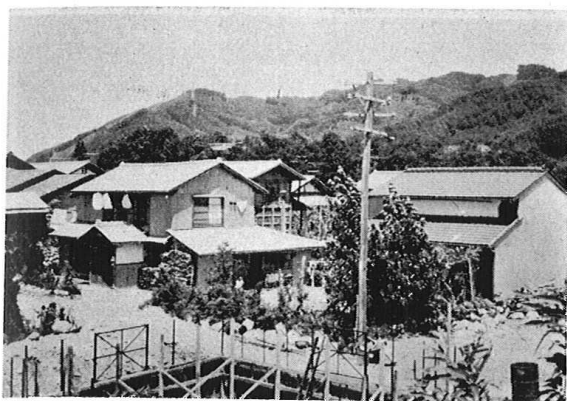
集団移住が考えられたのは今だ災害が続いている7月18日から22日までの5日間、地方事務所農務課(旧農地経済課)より2名の調査員が被災の現場に山伝いに危険を侵して到達し四徳住民93戸及び大鹿村北川部落等被災者を現地の山や河原に集め、今後の方針につき相談した結果被災者より「こんな恐ろしい処に住んでいられないから一日も早く安全な地へ連れて行って貰いたい」と言う切なる希望によるものである。

その結果は次の表のとおりである。

転住希望者の転住地域別職業区分

転住希望先	希者 望数	農 業		商 業	公 務 員	土 建 業	一 工 般 員	ク ニ ン グ	大 工	石 工	運 転 手	会 社 員	養 蚕 技 術 員	林 業	製 材 業	農 修 機 具 理	女 中	日 雇	僧 侶
		専	兼																
伊 那 市	34	5	9	1			13							1	1			4	
駒ヶ根市	86	2	8	5	2	2	47	1	4	2	2	3	2	4		1	1		
その他 郡内	42	29	8	1			3												1
下伊那郡松川町	4	1					3												
南安曇郡豊科町	1																		
その他 郡外	1						1												
計	168	37	25	7	2	2	67	1	4	2	2	3	2	5	1	1	1	5	1

昭和37年8月1日施行された集団移住事業補助金交付要綱にもとづいて、補助金を受けて移住した地区別移住農家と人員は別表のとおりであります。



【宮田村西大久保地区集団移住状況】

集団移住事業補助金

市町村	地区名	戸数	人口	補助金
駒ヶ根市	桃平	16戸	84人	3,280千円
	新沢	6	34	1,280
	板橋	16	70	3,000
	落合	5	24	980
	猿沢	7	31	1,320
	大洞	10	52	2,040
	計	60	295	11,900
中川村	四徳	85	437	17,240
	村	12	59	2,380
	計	97	496	19,620
長谷村	奥浦	25	142	5,340
	計	25	142	5,340
	合計	182	933	35,860

(註) 集団移住事業補助金交付要綱により
1戸当り 10万円、移住者1人 25万円

被災土地の買収

市町村名	地域名	対象戸数	農地	原野	宅地	計	買上金額
駒ヶ根市	桃平	16	5.8014	0.4603	0.1617	6.4304	6,346,448
	新沢	6	4.3110	0.0613	0.2803	4.6526	4,819,682
	板橋	7	0.4026	0.0018	0.2013	0.6127	649,010
	落合	16	0.1415	0	0.1227	0.2712	279,899
	猿沢	5	3.7523	0.1309	0.1209	4.0111	4,391,818
	大洞	10	6.6027	0.0909	0.4304	7.1310	7,219,137
	計	60	21.0325	0.7522	1.3313	23.1300	23,705,994
中川村	四徳	85	51.5400	0	3.1709	54.7109	52,236,170
	村	12	4.3215	0	0.3910	4.7125	3,439,140
	計	97	55.8615	0	3.5619	59.4304	55,675,310
長谷村	奥浦	25	11.1211	1.8309	0.6220	13.5810	5,750,457
	計	25	11.1211	1.8309	0.6220	13.5810	5,750,457
	合計	182	88.0221	2.5901	5.5222	96.1414	85,131,761

集団移住受入地公共施設事業

所在地	地区名	移住戸数	事業の内訳	事業費	事業費負担区分			
					県	市町村	移住者	
				千円	千円	千円	千円	
伊那市	野底	20 ^戸	水路	485m	3,395	2,594	801	0
			道路	560m				
			水道	20戸分				
			電気工事	550m				
駒ヶ根市	原垣外	47	道路	432m	852	567	285	0
			排水	257m				
			水道					
			電気工事					
駒ヶ根市	馬住原	14	整地	2.3ha	1,080	1,080	0	0
			道路	137m				
			水道	14戸分				
			電気工事					
駒ヶ根市	宮ノ北	10	道路	200m	1,035	690	345	0
			水道	900m				
駒ヶ根市	森下	2	整地	2.8ha	1,574	1,574	0	0
			道路	732m				
			井戸					
			電気工事					
宮田村	西大久保	19	水田造成	4.2ha	25,634	18,971	5,913	750
			揚水工	950m				
			護岸工	300m				
			道路	500m				
			水路	1,590m				
			水道	19戸分				
			電気工事					
合計	6地区	112			33,570	25,476	7,344	750

3. 耕地関係について

被災が多く激甚地指定を受けた長谷村前浦地区、駒ヶ根市桃平外6地区、中川村四徳、桑原、滝沢等の地区において耕地復旧計画を樹立し一応は査定を受け復旧工事費も決定したが、その後これらの地区住民が将来を考える時殆んど再起の見込みのない河原と化した耕地を思い切り安全な場所に全戸移住を決意したため復旧予算を移住資金に振替えることに

なり、これらの復旧は中止となったが全戸移住をしない他60余地区に亘る農地、水路、頭首工、橋梁、道路等の改修又は新設に技術を尽し工夫を凝らしつゝ努力を続けた耕地復旧事業も昭和39年度に至り全面的に竣工の運びとなり整備された水路に満々と水をたゞえ区画された農地に穂が垂れる喜びは忘れようとして忘れられない被災の惨状から脱皮する一助ともなろう。

耕地事業の3ケ年に亘る復旧状況は次表のとおりである。

昭和36年梅雨前線豪雨耕地関係被災一覧表

(36・7・7午前11時)

市町村	農 地			農 業 用 施 設								総 合 計		
	個所数	面積	金額	水 路			頭 首 工		橋 梁		道 路		個所数	金額
				個所数	延長	金額	個所数	金額	個所数	金額	個所数	金額		
伊 那 市	19	16.7	22,400	58	5,677	44,900	10	3,400	8	1,550	7	1,180	102	73,430
駒ヶ根市	60	76.5	87,230	41	5,179	29,560	16	12,430	2	850	2	2,140	121	132,210
高 遠 町	13	1.9	1,090	29	1,843	10,700	8	8,140	—	—	3	1,060	53	21,020
辰 野 町	13	3.0	1,550	12	560	9,100	8	3,030	3	930	3	400	38	15,010
箕 輪 町	9	3.5	670	2	290	1,750	18	10,720	1	300	2	350	32	13,790
飯 島 町	12	7.6	16,050	19	1,615	20,410	3	3,300	—	—	1	500	40	40,260
南箕輪村	—	—	—	5	280	2,250	3	2,720	—	—	—	—	8	4,970
中 川 村	91	155.7	213,808	70	20,600	192,930	22	16,500	26	8,450	26	21,190	251	442,878
長 谷 村	54	28.0	34,890	27	554	29,780	—	—	—	—	—	—	81	64,670
宮 田 村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	271	292.9	377,688	268	36,514	334,610	95	62,780	40	12,080	45	27,070	735	814,228

小災害(30万以上10万円未満)36豪雨被害

(36・7・7午前11時)

事項 市町村	農 地			農 業 用 施 設								総 合 計		
	個所数	面積	金額	水 路			頭 首 工		橋 梁		道 路		個所数	金額
				個所数	延長	金額	個所数	金額	個所数	金額	個所数	金額		
伊那市	16	1.23	千円 944	32	m 410	千円 25,40	5	千円 290	7	千円 380	3	千円 130	59	千円 4,884
駒ヶ根市	44	11.00	2,200	22	550	11,00	6	300	4	200	4	200	80	4,000
高遠町	16	1.53	770	32	343	15,72	2	80	2	80	1	52	43	2,554
辰野町	11	.74	580	3	220	1,90	—	—	—	—	1	80	15	850
箕輪町	3	.09	175	4	60	3,00	3	211	—	—	1	50	11	736
飯島町	4	.53	260	15	329	11,70	1	95	1	80	1	95	22	1,700
南箕輪村	1	.02	50	6	120	5,60	1	100	1	100	2	160	11	970
中川村	35	11.19	2,683	59	2,415	46,15	7	590	7	570	17	1,490	127	9,948
長谷村	33	3.73	2,594	11	270	8,44	2	120	—	—	—	—	46	3,558
宮田村	—	—	—	11	218	8,20	—	—	1	70	1	90	13	980
合 計	163	30.06	10,256	185	4,936	137,11	27	1,786	23	1,480	33	2,347	427	29,580

応 急 工 事 耕 地 関 係

事項 市町村	農 地			農 業 用 施 設								合 計		
	個所数	面積	金額	水 路			頭 首 工		橋 梁		道 路		個所数	金額
				個所数	延長	金額	個所数	金額	個所数	金額	個所数	金額		
伊那市	ナシ	ナシ	ナシ	2	m 127	千円 1,100		千円					2	千円 1,100
駒ヶ根市				2	001	120	6	590					8	710
高遠町				3	140	350							3	350
辰野町														
箕輪町														
飯島町				4	230	600	3	300					7	900
南箕輪村														
中川村				2	150	300	1	500					3	800
長谷村				1	40	80							1	80
宮田村							1	600					1	600
合 計				14	787	2,550	11	1,990					25	4,540

応 急 査 定 耕 地 関 係

市町村	農 地			水 路			頭 首 工		橋 梁		道 路		合 計	
	個所数	面積	金額	個所数	延長	金額	個所数	金額	個所数	金額	個所数	金額	個所数	金額
伊那市			千円	12	m 634	千円 5,103	1	千円 220		千円		千円	13	千円 5,323
駒ヶ根市	2	16.5	49,800						2	850	6	1,660	10	52,310
高遠町				3	107	890	2	1,490					5	2,380
辰野町									3	930			3	930
箕輪町				1	30	250	3	1,700	1	380			5	2,330
飯島町				1	100	500	2	1,000					3	1,500
南箕輪村				1	190	1,680							1	1,680
中川村	1	15.0	45,000	12	1,850	22,570	4	3,300	3	1,400	3	1,210	23	73,480
長谷村				3	63	2,490							3	2,490
宮田村							1	2,500					1	2,500
合 計	3	31.5	94,800	33	2,974	33,483	13	10,210	9	3,560	9	2,870	67	144,923

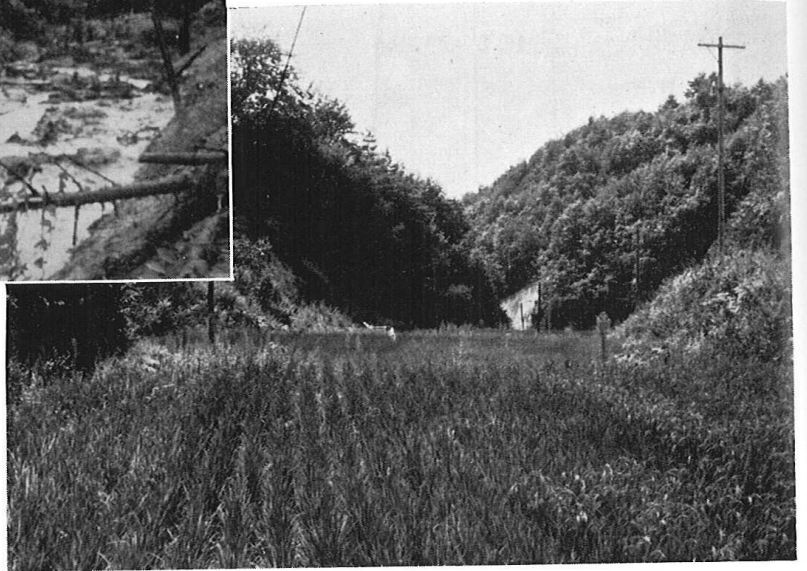
昭和36年梅雨前線豪雨災害復旧実績表

市町村	農 地			農 業 用 施 設								総 合 計		
				水 路			頭 首 工		橋 梁		道 路			
	個所数	面積	金額	個所数	延長	金額	個所数	金額	個所数	金額	個所数	金額	個所数	金額
伊那市	2	43.5	千円 5,578	25	m	千円 15,648	6	千円 2,713		千円		千円	33	千円 23,939
駒ヶ根市	33	488.1	29,885	74		140,832	4	4,652	3	2,902	9	4,505	90	152,891
高遠町				17		9,373	4	2,750			3	907	24	13,030
辰野町				7		1,993	9	10,783	2	855	1	113	19	13,744
箕輪町				5		5,083	12	21,578	1	299	1	328	19	27,288
飯島町	2	70.0	6,649	12		2,667	1	350			3	2,626	16	5,643
南箕輪村				4		2,488							4	2,488
中川村	65	1008.0	87,829	106		276,458	3	7,209	4	1,325	10	5,460	123	290,452
長谷村	14	88.0	12,461	18		29,870	2	1,663			1	481	21	32,014
宮田村	—	—	—	—		—	—	—	—	—	—	—	—	—
合 計	116	1697.6	142,402	268		484,412	41	51,698	10	5,381	28	14,420	349	561,489



【中川村下河原地区被災】 ↑
(36・7・7)

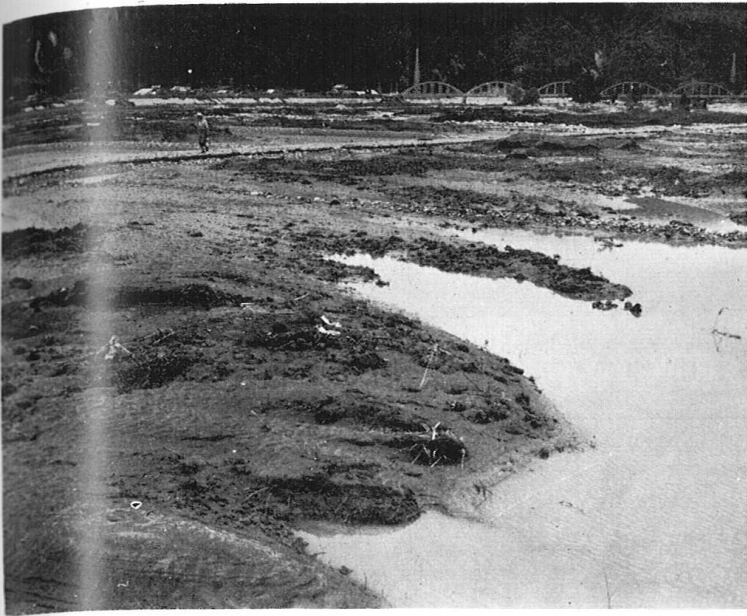
↓ 【同左 復旧状況】
(40・8・18)



【中川村兎沢被災状況】 →
(36・7・7)



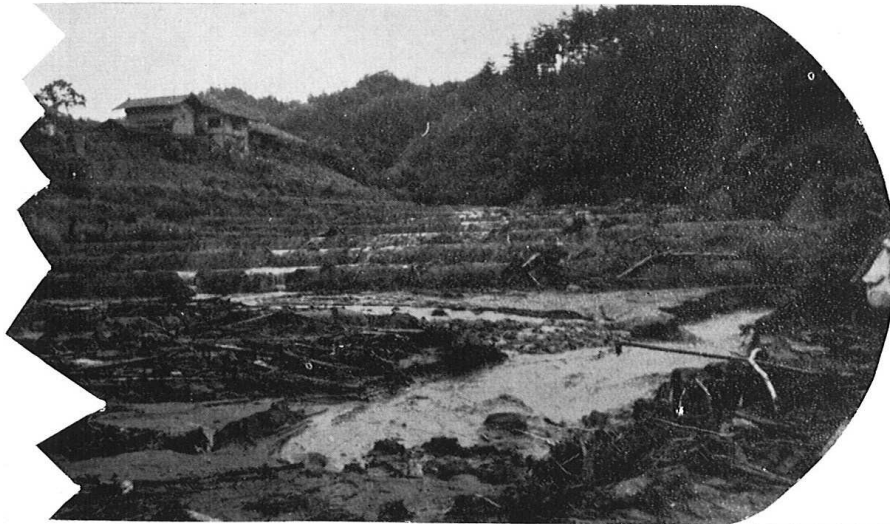
← 【同左 復旧状況】
(40・8・18)



↑【中川村鹿養地区被災状況】(36・7・7)

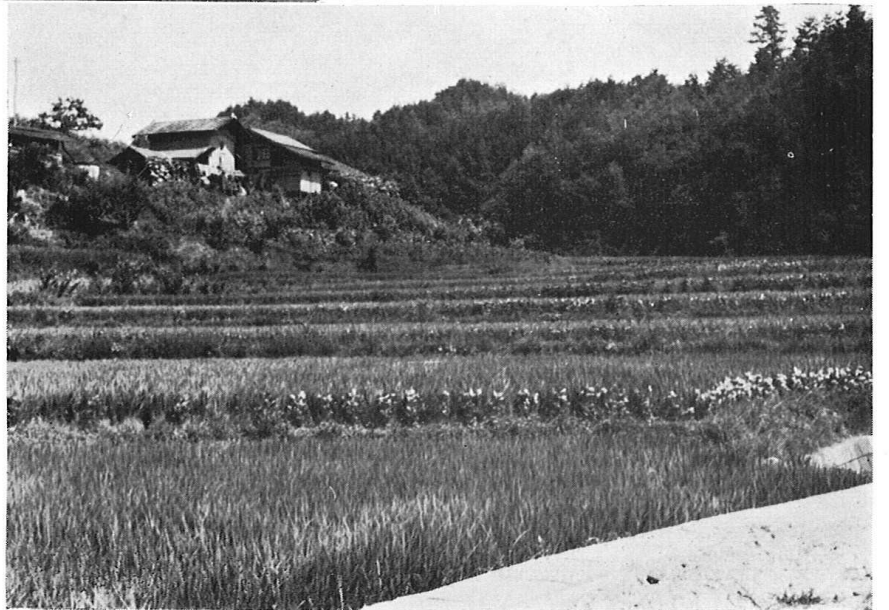


↑【同左 復旧状況】(40・8・18)



←【中川村大中洞地区被災状況】
(36・7・7)

→【同上 復旧状況】
(40・8・18)



4. 蚕糸関係について

養蚕関係被害は総被害金額20,649千円に達し之を大別すれば次のとおりである。

- (1) 桑園の流失額決潰流土砂混入等によるもの収穫皆無換算40.9ha (全桑園の1.9%)
- (2) 飼育中の蚕児放棄を余儀なくされたもの、107

箱 (総掃立量の6.6%) 之による繭の減産3,737kg (金額2,092千円)

- (3) 上記(2)による外、用桑悪化、適期給桑不能及び簇中保護が充分出来なかった等の為繭質の悪化を来したのも4,900kg、之が損害2,744千円
- (4) 稚蚕飼育施設の流失せるもの2ヶ所、損害4,000千円

桑園、蚕児及び繭ならびに施設被害状況

区分 町村名	桑園面積	被害面積	被害程度別面積					収穫皆無換算面積	蚕繭被害減収量	単価	被害金額	被害戸数
			30%以下	30~50	50~70	70~90	90~100					
中川村 外9ヶ町村	11,663	408.3	25.3	74.5	9.1	10.6	288.8	336.9	15,901	560	8,903	638
駒ヶ根市 他1ヶ市	10,278	95.1	12.1	10.0	5.6	2.6	64.8	72.4	5,196	560	2,910	83
合計	21,741	503.4	37.4	84.5	14.7	13.2	353.6	409.3	21,097	560	11,813	721

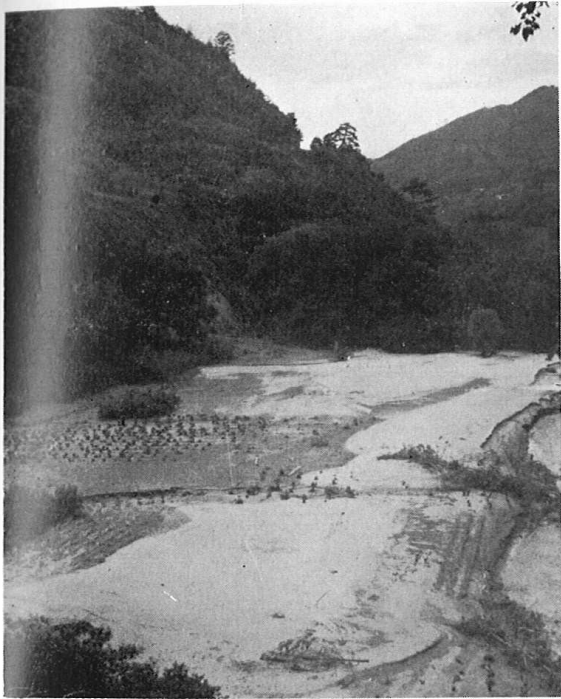
区分 町村名	被害前の状況		被害による減収状況			被害当時における蚕齢	被戸害養蚕数	施設の被害		被害見込額総計
	蚕掃立量	収繭見込数量	放棄数	減繭収量	左金の額			数	金額	
中川村 外9ヶ町村	9,095.5	951,000	72	4,100	2,296	繭質低下 5齢末期簇中	38	1	1,000	13,621
駒ヶ根市 他1ヶ市	7,065	788,000	35	800	448	繭質低下 5齢末期簇中	44	1	3,000	7,028
合計	16,160.5	1,739,000	107	4,900	2,744	繭質低下 5齢末期簇中	82	2	4,000	20,649

なお道路決潰等により、一時は養蚕農家の汗の結晶である生繭の搬出が危ぶまれたが関係団体及び養蚕農家の人力による必死の搬出及び自衛隊のヘリコ

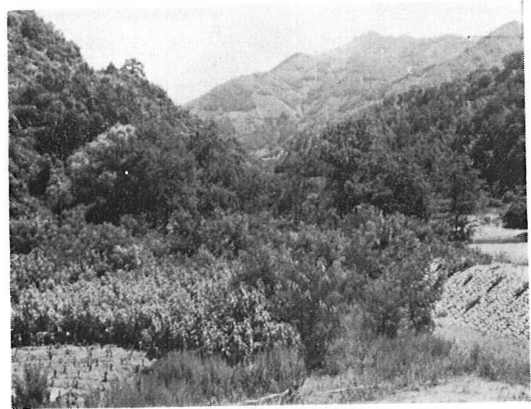
プターの応援による輸送で幸にも事なきを得た、之が実績下表のとおり。

緊急物資(生繭)輸送について

項目	生繭輸送量	輸送事業に要した経費	県繭補助金	事業完了月日	備 考
農協	kg	円	円		
南向農協	32,080	184,800	61,200	36・7・10	自衛隊のヘリコプターによる輸送 人力、延人員 440人
中沢農協	5,920	61,200	20,400	36・7・20	人力による輸送、一部車輛輸送 人力、延人員 131.5人
伊那里農協	11,991	115,500	38,400	36・7・6	人力による輸送 延人員 275人
計	49,991	361,500	120,000		



↑ 被害当時(中川村南向)



↑ 復興後(中川村南向)



ヘリコプターによる生繭の搬出輸送(中川村南向、四徳)

概況

寛保の羊満水以来といわれる、所謂今回の梅雨前線豪雨による林業関係被害額は、

治山事業関係	1,100,264千円
林道事業関係	101,136 "
林産事業関係	25,199 "
国有林事業関係	333,149 "
計	1,559,748 "

のようなぼう大なる数字を示し、県下では下伊那に次いでの大被害を受けた。

この災害は豪雨による増水量そのものによる被害も大きかったが、なんといっても山谷崩壊の発生による流出土砂の被害が最大原因であった。

このことから、林務関係としては復旧の重点を二次災害防止の見地からは治山事業、復旧資材の搬出、交通確保の立場からは林道事業の二点に絞って対策が樹立された。



【自衛隊による林道応急工事（駒ヶ根市中沢桃平）】

この結果別表のとおり治山事業については特に激甚を極めている。

駒ヶ根市中沢地区、中川村地区を昭和37年度から国の直轄事業に移管し、鋭意復旧に努めてきたような次第で、現在は当時の特殊緊急治山事業を完了し、引続いて新5ヶ年計画の一環とし目下完全復旧を目的として続行中である。また地方事務所としては上記以外の長谷村外各市町村に対し同様な進度を以って復旧することが出来、これ又本年度から発足される治山事業新5ヶ年計画にそって更に補完を急いでいる次第である。林道事業についても林道網の整備拡充の矢先であっただけに受けた打撃は大きいものがあつたが、別項記載のごとく関係市町村の絶大なる御協力を得て予定通り復旧することが出来た次第である。本災害でテストケースとして採択された集団移住についてはその跡地を県で買い上げ、防災県有林として植林し所管することになったが、長谷村浦地籍については造林を完了し目下育林中であり、駒ヶ根市中沢地籍、中川村四徳、桑原地籍についても目下実行中である。

以下各事業別について述べると次のとおりである。

1. 治山関係について

治山関係被害は郡下で南部の飯島町、中川村南向、駒ヶ根市中沢、長谷村が特に多く、その総額は11億円余に達した。

種別	個所数	面積	被害額
新生崩壊地	975	1,125.23 ha	954,460 千円
拡大崩壊地	123	64.25	136,920
施設災害	8	—	8,884
計	1,106	1,189.48	1,100,264

この計画、調査に対処するために直ちに係員を現地へ派遣すると共に、県に対しても応援を求め、調査を完了させた。この査定額は一般分 102,700万円

(ただし、うち85,200万円余は長野営林局中川治山事業所分) 特緊分 52,900万円余、(ただし、うち35,000万円については長野営林局中川治山事業所分) 施設災害分 880万円余となり、特緊分及び施設災害

分については4ヶ年間に完了した。

ただし、一般査定分(緊急)10億2千7百万円余については、40年度以降の治山事業として計画実施される見込である。

治山事業被害実績対比表(特緊分)

市町村別	種別	新生崩壊地			拡大崩壊地			計		
		個所	面積	被害額	個所	面積	被害額	個所	面積	被害額
				千円			千円			千円
高遠町	20	5.02	11,500	—	—	—	20	5.02	11,500	
辰野町	7	4.26	8,500	1	0.40	1,000	8	4.66	9,500	
箕輪町	21	4.60	12,900	2	4.50	14,000	23	9.10	26,900	
飯島町	100	62.70	95,860	77	35.00	53,520	177	97.70	149,380	
南箕輪村	6	0.28	200	1	0.15	100	7	0.43	300	
西春近村	1	1.30	1,000	—	—	—	1	1.30	1,000	
中川村	311	209.24	390,700	16	10.70	34,500	327	219.94	425,200	
中河村	5	2.20	6,000	—	—	—	5	2.20	6,000	
長谷村	65	665.83	168,700	—	—	—	65	665.83	168,700	
宮田村	5	1.00	1,850	—	—	—	5	1.00	1,850	
伊那市	41	15.30	9,200	—	—	—	41	15.30	9,200	
駒ヶ根市	393	153.50	248,050	26	13.50	33,800	419	167.00	281,850	
小計	975	1,125.23	954,460	123	64.25	136,920	1,098	1,189.48	1,091,380	
(国営)中川村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
駒ヶ根市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
小計	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
計	975	1,125.23	954,460	123	64.25	136,920	1,098	1,189.48	1,091,380	

市町村別	種別	査定		36年		37年		38年		39年		計	
		一般	特緊	個所	金額	個所	金額	個所	金額	個所	金額	個所	金額
		千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円	千円
高遠町	50,000	16,700	2	2,300	—	—	—	—	2	5,788	4	8,088	
辰野町	2,000	5,000	—	—	2	3,566	—	—	—	—	2	3,566	
箕輪町	2,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
飯島町	2,000	9,900	2	3,355	1	2,205	1	2,260	—	—	4	7,820	
南箕輪村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
西春近村	1,000	6,000	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
中川村	—	49,619	12	30,172	3	5,873	3	6,676	4	7,598	22	50,319	
中河村	—	—	1	1,530	1	1,305	—	—	—	—	2	2,835	
長谷村	108,310	75,971	7	19,073	10	21,073,335	6	19,128	3	13,887	26	73,161,335	
宮田村	10,000	16,310	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
伊那市	—	—	1	1,010	1	1,365	1	2,760	1	1,862	4	7,027	
駒ヶ根市	—	—	3	16,168	—	—	—	—	—	—	3	16,168	
小計	175,310	179,500	28	73,608	18	35,387,335	11	30,824	10	29,165	67	168,984,335	
(国営)中川村	852,540	350,000	—	—	9	49,349	10	53,147	11	59,120	30	161,616	
駒ヶ根市			—	—	11	50,651	12	46,853	9	40,880	32	138,384	
小計	—	—	—	—	20	100,000	22	100,000	—	100,000	62	300,000	
計	1,027,850	529,500	28	73,608	38	5,487,355	33	40,824	20	129,165	124	169,284,335	

【註】 本実績は特殊緊急治山事業分で一般分については別紙のとおり。

治山事業施設災、被害実績対比表

市町村別	種別		施設		査定		36年		37年		38年		39年		計		備考
	個所	被害額	個所	査定額	個所	金額	個所	金額	個所	金額	個所	金額	個所	金額	個所	金額	
高遠町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
辰野町	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
箕輪町	1	275	1	275	—	—	1	335	—	—	—	—	—	—	1	335	
飯島町	1	677	1	677	1	700	—	—	—	—	—	—	—	—	1	700	
南箕輪村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
西春近村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
中川村	3	2,746	3	2,746	1	340	2	2,943	—	—	—	—	—	—	3	3,283	
河南村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
長谷村	1	2,465	1	2,465	—	—	—	—	1	2,620	—	—	—	—	1	2,620	
宮田村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
伊那市	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	
駒ヶ根市	2	2,721	2	2,721	—	—	—	—	1	920	—	—	—	—	1	920	1ヶ所廃工
計	8	8,884	8	8,884	2	1,040	3	3,278	2	3,540	—	—	—	—	7	7,858	

治山事業実績表（一般分）

市町村別	種別	査定		36年		37年		38年		39年		計	
		一般	個所	金額	個所	金額	個所	金額	個所	金額	個所	金額	
高遠町		50,000	1	3,248	—	—	3	7,702	2	4,473	6	15,423	
辰野町		20,000	1	1,970	—	—	2	4,700	3	8,048	6	14,718	
長谷村		75,971	—	—	3	7,196	1	2,620	5	13,153	9	22,963	
中川村		49,619	2	20,134	2	2,943	—	—	—	—	4	4,977	
駒ヶ根市		—	2	3,487	1	2,980	2	4,827	4	10,055	9	21,349	
宮田村		16,310	—	—	—	—	—	—	1	4,577	1	4,577	
伊那市		—	1	975	—	—	1	2,038	6	11,868	8	14,901	
南箕輪村		—	—	—	—	—	1	2,997	—	—	1	2,997	
箕輪町		—	—	—	1	335	1	2,830	1	1,435	3	4,600	
飯島町		—	4	4,634	2	5,270	2	6,850	2	6,546	10	23,310	
計		179,500	11	16,368	9	18,718	13	34,564	24	60,155	57	129,805	

治山事業実績表 (県単治山)

市町 村別	種別		36年		37年		38年		39年		計	
	個所	金額	個所	金額	個所	金額	個所	金額	個所	金額	個所	金額
高遠町	3	千円 1,055	1	千円 220	2	千円 628	2	千円 294	8	千円 2,197		
長谷村	—	—	—	—	—	—	1	142	1	142		
中川村	1	150	1	91	1	458	—	—	3	699		
飯島町	2	238.5	3	420	—	—	1	110	6	768.5		
駒ヶ根市	—	—	—	—	1	113	—	—	1	113		
宮田村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—		
伊那市	8	1,649.5	4	1,018.5	3	812	3	637.5	18	4,007.5		
南箕輪村	1	120	1	287	—	—	—	—	2	407		
箕輪町	3	584	2	533	1	187	2	329.5	8	1,633.5		
辰野町	1	221	2	419	2	302	1	189	6	1,131		
計	19	4,018	14	2,988.5	10	2,500	10	1,702	—	11,208.5		

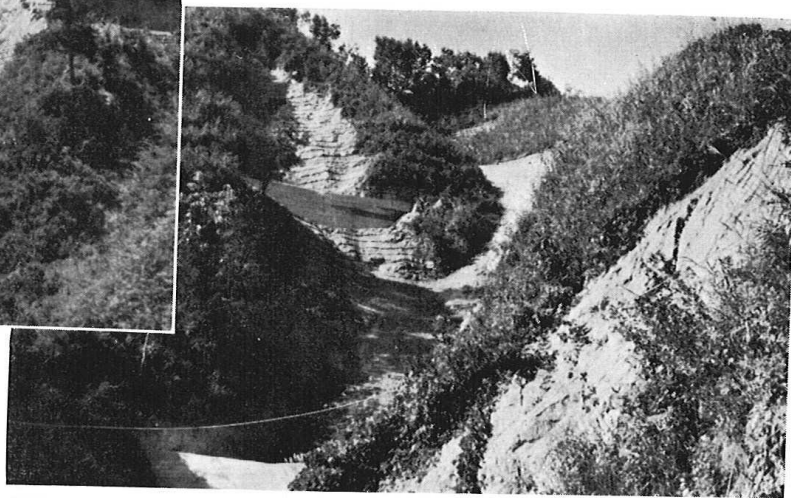


梅雨前線豪雨により至るところ荒廃した林地
(上伊那郡中川村南向桑原地籍)



← 被災当時 36・7

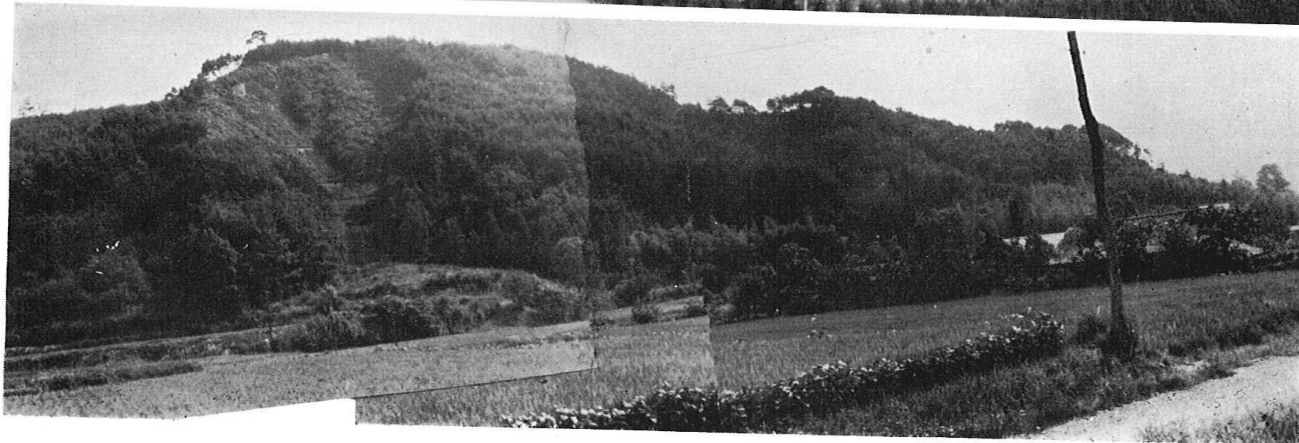
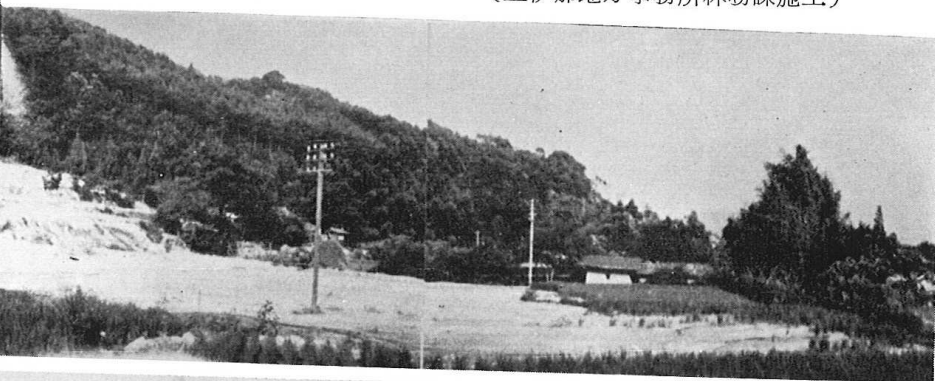
↓ 復旧後 昭40・7



荒廃を復旧した林地 ↗ 上伊那郡中川村南向空久保地籍（長野営林局中川治山事業所施工）



↓ 災害（上）と復旧（下） 上伊那郡中川村片桐日向山地籍（上伊那地方事務所林務課施工）



2. 林道関係について

既設林道215路線、総延長317,287mのうち40路線24,617mに被害を受けその額およそ101,000千円に及んだ、この復旧計画については県並びに他の地方

事務所及び特に他府県の長期応援をえて35路線127ヶ所、104,384千円の設計をまとめ林野庁の査定をうけ、その結果35路線125ヶ所、97,238千円、査定率93.2%となった。

市町村別被害額並びにこれに対する査定決定額は次の表のとおりである。

市町村別被害額並びに査定決定額

(工事費は千円単位)

市町村名	被 害				申 請 額				全左に対する査定決定額			
	路線 数	箇所 数	延 長	被 害 額	路線 数	箇所 数	延 長	工 事 費	路線 数	箇所 数	延 長	工 事 費
高 遠 町	4	14	251	1,550	4	9	251	1,489	4	7	168	1,154
辰 野 町	6	48	1,652	9,323	5	22	968	10,320	5	22	913	9,243
箕 輪 町	3	17	2,684	9,500	3	8	807	3,257	3	8	737	2,976
飯 島 町	2	36	4,819	6,825	2	9	706	5,400	2	9	527	4,631
南箕輪村	1	4	100	170	1	1	24	1,625	1	1	24	1,625
河 南 村	1	4	166	1,479	1	3	265	2,850	1	3	249	2,810
長 谷 村	3	15	360	6,300	3	11	342	6,759	3	10	269	5,903
西 春 近 村	3	17	510	2,306	2	5	194	2,185	2	5	194	1,959
宮 田 村	1	10	421	850	1	1	215	1,424	1	1	215	1,389
中 川 村	9	23	8,126	21,081	9	42	3,781	32,013	9	42	3,712	28,916
伊 那 市	5	62	2,278	12,422	2	2	99	1,255	2	2	99	1,103
駒ヶ根市	2	14	2,800	29,330	2	14	1,824	35,807	2	15	1,746	35,529
合 計	40	264	24,167	101,136	35	127	9,476	104,384	35	125	8,853	97,238

この復旧計画については法定進度とにらみ合せ緊急を要する箇所より実施すべく県並びに国に対し予算要求したのであるが、その結果初年度14路線50箇所、30,983千円を実施29%復旧、さらに37年度は4路線17箇所、28,626千円を実施、初年度より通算53%復旧3年目にあたる38年度においては11路線34箇所29,875千円実施、通算79%の復旧を見た。最終年度の39年度については4路線15箇所、16,394千円を実施しこの間、他所管による事業により復旧する必要がなくなったもの等竣工したものが一部あった。市町村別復旧実績は49～50頁の表のとおりである。

林 道 復 旧

市町村	36年度				37年度				38年度				39年度			
	路線数	箇所数	延長	工事費	路線数	箇所数	延長	工事費	路線数	箇所数	延長	工事費	路線数	箇所数	延長	工事費
高遠町	2	4	113	(852) 732	—	—	—	—	2	3	55	(648) 422	—	—	—	—
辰野町	3	12	457	(5,662) 5,457	(1)	7	364	(3,502) 3,042	2	3	92	(929) 744	—	—	—	—
箕輪町	1	2	55	(677) 645	—	—	—	—	1	2	238	(1,834) 1,327	1	2	119	(494) 329
飯島町	—	—	—	—	—	—	—	—	2	5	(224) 244	(3,572) 2,577	(1)	4	(279) 283	(3,229) 2,054
南箕輪村	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	24	(2,047) 1,625
河南村	1	3	249	(3,110) 2,810	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
長谷村	3	8	208	(5,470) 5,002	(1)	2	61	(1,114) 901	—	—	—	—	—	—	—	—
西春近村	2	5	194	(2,092) 1,959	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—
宮田村	—	—	—	—	1	1	215	(1,616) 1,389	—	—	—	—	—	—	—	—
中川村	2	16	1,435	(13,120) 10,798	(1)	5	146	(2,067) 1,688	(1)	12	(505) 506	(5,768) 4,840	1	2	(228) 291	(2,473) 2,085
伊那市	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	(90) 83	(1,216) 931	1	1	16	(312) 172
駒ヶ根市	—	—	—	—	1	2	874	(20,327) 16,607	(1)	8	(15,908) 13,448	(1)	5	(310) 321	(7,839) 5,474	
合 計	14	50	2,711	(31,983) 27,403	(2)	17	1,660	(28,626) 23,627	(2)	34	(1,755) 1,769	(29,875) 24,289	(2)	15	(976) 1,054	(16,394) 11,739

【注】延長工事費の（ ）は単価アップ等による実施額である。



←
【林道大松尾線被害状況
被害当時】

なお又、国庫補助対象外となつたもので将来増破のおそれあるものを県単災害として実施した。

市町村別、路線別復旧実績は下表のとおりである。

事業実績

(工事費は千円単位)

計				廃工				合計			
路線数	箇所数	延長	工事費	路線数	箇所数	延長	工事費	路線数	箇所数	延長	工事費
4	7	168	(1,500) 1,154	—	—	—	—	4	7	168	1,154
5	22	913	(10,093) 9,243	—	—	—	—	5	22	913	9,243
3	6	412	(3,005) 2,301	(1)	2	325	675	3	8	737	2,976
2	9	(503) 527	(6,801) 4,631	—	—	—	—	2	9	527	4,631
1	1	24	(2,047) 1,625	—	—	—	—	1	1	24	1,625
1	3	249	(3,110) 2,810	—	—	—	—	1	3	249	2,810
3	10	269	(6,584) 5,903	—	—	—	—	3	10	269	5,903
2	5	194	(2,092) 1,959	—	—	—	—	2	5	194	1,959
1	1	215	(1,616) 1,389	—	—	—	—	1	1	215	1,389
7	35	(2,314) 2,378	(23,428) 19,411	(2)	7	1,334	9,505	9	42	3,712	28,916
2	2	(106) 99	(1,528) 1,103	—	—	—	—	2	2	99	1,103
2	15	(1,735) 1,746	(44,074) 35,529	—	—	—	—	2	15	1,746	35,529
33	116	(7,102) 7,194	(105,878) 87,058	(3)	9	1,659	10,180	35	125	8,853	97,238

大松尾線第3工区

施行位置 駒ヶ根市中沢字大松尾復旧後

復旧延長 247m 工事費 7,199,千円

昭和38年度施行



県 単 小 災 害 復 旧 実 績

(単位千円)

市町村別	36 年 度				37 年 度				38 年 度				39 年 度				合 計			
	路 線 数	個 所 数	延 長	工 事 費	路 線 数	個 所 数	延 長	工 事 費	路 線 数	個 所 数	延 長	工 事 費	路 線 数	個 所 数	延 長	工 事 費	路 線 数	個 所 数	延 長	工 事 費
高 遠 町	1	4	115	382	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	4	115	382
辰 野 町	5	8	79	583	1	2	29	190	1	1	7	86	1	2	16	160	8	13	131	1,019
箕 輪 町	1	3	46	239	—	—	—	—	—	—	—	—	1	2	16	140	2	5	62	379
長 谷 村	3	4	47	351	—	—	—	—	2	2	30	150	—	—	—	—	5	6	77	501
中 川 村	2	3	34	209	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	2	3	34	209
伊 那 市	2	2	26	206	1	1	9	90	2	2	18	144	—	—	—	—	5	5	46	440
駒ヶ根市	1	1	30	99	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	—	1	1	30	99
合 計	15	25	377	2,069	2	3	38	280	5	5	48	380	2	4	32	300	24	37	495	3,029

3. 造林地関係について

此の度の災害は、降雨多量の所も少量の所もあったが、被害の状況を「森林の令級と崩壊」の面から見るに混交林を除けば針葉樹、広葉樹でも一応幼令林地（10年未満）の方が壮令林地（10年～40年未満）より多くなっている。老令林（40年以上）は、他の幼令林、壮令林の林地に比較して分布が非常に少ないので、比較検討することが出来ない。

又、樹種別と崩壊との関係は、新宮川流域では単位面積あたりの山地崩壊面積は針葉樹、広葉樹混交

の順で小さくなっているが四徳川流域では針葉樹が小さくなっている。これは針葉樹林の樹令別構成が両河川流域では逆になっているためで、幼令林の荒廃に対する影響の大きさが樹種別の差より大きいことを意味している。色々体験したが此の度の災害により痛感したことは、

- 1)、急傾斜山腹面への造林
- 2)、大面積皆伐による造林
- 3)、山腹面での縦に長い斜面への造林

であり、これからの造林について充分考慮すべき余地を残している。

造
林
地
の
被
害
状
況

市町村	事 項	造 林 地 苗 圃		立 木		計
		面 積	被 害 額	数 量	被 害 額	被 害 額
		ha	千円	m ²	千円	千円
高 遠 町	遠 野 町	3.01	120	84	21	141
辰 野 町	箕 輪 町	2.86	114	81	20	134
箕 輪 町	飯 島 町	7.10	284	198	50	334
南 箕 輪 村	南 箕 輪 村	94.92	4,597	2,117	3,454	8,051
		0.28	11	—	—	11
中 川 村	中 川 村	苗 1,160	150			
長 谷 村	長 谷 村	233.89	11,356	7,138	11,437	22,943
伊 那 市	伊 那 市	399.49	15,980	11,172	2,796	18,776
駒 ヶ 根 市	駒 ヶ 根 市	0.60	24	46	11	35
		12.58	510	340	4,173	4,683
		102.63	4,105	2,873	718	4,823
計	計	苗 1,160 857.36	37,251	24,049	22,680	59,931

移住跡地のその後の状況

特に激しかった中川村四徳、駒ヶ根市中沢、長谷村奥浦の3地区は、住民の集団移住により移住跡地を県有地として買上げ、その後県有林として管理されることになった。

(1) 中川村四徳地籍

被害地は3ヶ年にわたる復旧工事も完成し、道路、河川は災害前に優り整備され、崩壊地も営林局により完成間近い状態である。移住跡地の県有地は36haの唐松の植栽、2,900mの編柵工

等により目下緑化が進められている。

(2)、駒ヶ根市、中沢地籍

中川村と同様、河川、道路の復旧事業も完了し、移住跡地の県有地も9haの唐松の植栽、354mの編柵工を施行し、中川地区と同様目下計画的に事業推進を図っている。

(3)、長谷村奥浦地籍

上記と異り、河川、道路の被害は少く、移住跡地の県有地は24haの唐松の植栽、2,000mの編柵工も施行され全地緑化を完成し目下保育事業に移行している状況である。

集団移住により県が買上げた県有林の事業実施状況

箇所	3 8 年 度						3 9 年 度		
	買上台帳面積	実測見積面積	既植栽面積	事業費	編柵数量	事業費	保 育 面積	事業費	備 考
中川村 四 徳	58.930 ha	見込 80.00 ha	36.00 ha	1,285,465 円	2,900 m	1,140,000 円	36.00 ha	131,932 円	
駒ヶ根市 中 沢	22,938	見込 20.00 ha	9.00	296,000	354 m	130,940	8.70	32,067	
長 谷 村 浦	11,028	25.02 ha	24.00	1,144,500	2,000	753,000	22.50	103,530	

4. 林産関係について

概 要

昭和36年6月梅雨前線豪雨による林産関係の施設被害については、木炭倉庫全壊20坪、半壊1坪、炭窯全壊153基、その他である。また林産物の被

害は木炭6,300俵、薪1,800束、木材2,317m³、椎茸榑木15,000本の流失等で特に中川村、駒ヶ根市、および長谷村の被害は堪大でこの地区の製炭者は集団移住により、140名程が転業した。

(中川村95名中63名、駒ヶ根市120名中30名、長谷村85名中47名)

林 産 関 係 被 害 状 況

種別 市町村別	木炭倉庫		木 炭		炭 窯		薪		木材(素材)		特殊林産		工場施設		合計 被害額 千円
	箇所 建坪 全壊 m ²	被害額 千円	数量	被害額 千円	全壊 基数	被害額 千円	数量	被害額 千円	数量	被害額 千円	数量	被害額 千円	数量	被害額 千円	
中川村	全—8 —80.0	866	5,500	2,200	30	660	1,500	45	640	5,850			1	500	10,121
箕輪町	半—1 —32.4	25	50	20	1	25								70	140
長谷村	全—1 —54.0	100	500	200	70	1,540									1,840
宮田村	全—1 —22.0	50	50	20											70
駒ヶ根市	全—10 —293.0	880			40	880			1,038	3,500	しいたけ榑木 15,000	1,500			6,760
高遠町			160	64	8	138			390	3,240					3,442
飯島町			40	16	1	22			210	2,100			1	400	2,538
伊那市					3	66									66
辰野町							300	12	39	280					292
計	全20-448 半1-32.4	1,921	6,300	2,520	153	3,331	1,800	57	2,317	14,970	1,500	1,500	2	900	25,199

同上に対する対策および復旧状況

災害「がま」については県の「災害がま復旧補助金交付要綱」(昭和36.10.4林務部)が制定され、早期復旧をはかると共に市町村、森林組合、農業協同組合等の協力にて、製炭者の転業により利用しないものを除いて木炭倉庫、「炭がま」ともそれぞれ復

旧、また同年の木炭原木については11月にほとんど確保した。

なお森林災害保険に加入しているものについては、各森林組合を經由して別表のとおり保険金が支払われた。

罹災地の森林国営保険金支払状況

市 町 村 名	件 数	面 積	保 険 金 支 払 額	備 考
駒ヶ根市	18件	8.49ha	94,068円	
伊那市	1	0.38	6,650	
辰野町	4	0.47	6,432	
河南村	4	1.42	25,084	
長谷村	4	3.04	41,850	
飯島町	1	0.35	4,029	
中川村	23	3.75	55,534	
計	55	17.90	233,647	

5. 国有林関係被害額調

(36年災害)

項 目	署 別			備 考
	伊那営林署	駒ヶ根営林署	諏訪営林署	
被害総額	254,736千円	76,277千円	2,136千円	
立木竹関係	1,050	—	—	
製品事業伐採関係	2,080	241	653	
造林関係	1,880	30	280	
治山事業関係	93,600	69,920	—	
官行造林関係	2,250	3,630	—	
宿舍関係	577	—	238	
林道関係	146,828	2,456	925	
その他	6,471	61	40	

編集後記

あの災害から4年有余が過ぎ去りました「夢であってくれ」と心で祈ったものですが現実の悲惨さ厳しさは、本当に目に余るものでした。

被災直後から建設、復旧、再興と心は矢たけにはやれども、山は崩れ、家は流され、川は又高い所を流れるという常識はずれの惨状で、余りにも大きかった災害はしばし、お互ぼう然自失の態でした。

ここに漸く復興が完成されましたが、この4年余の歳月の間には定期便のように訪れる台風などにさいなまされたことは申すまでもありません。

「災害は、もう沢山。無風息災の里であって欲しい」と願うのは何人も同じですが、今日の安泰こそは、父祖、先輩の涙と努力健斗の土台の上にあることを再認識して、しっかりと胸にだきしめたいと思います。

この小冊子は昨年9月飯田市で行なわれた36災復興祭にあわせて発行されるべきであったが計画が遅れたのと関係者の異動のためや資料拾収などに意外に手間をとってしまい心ならずも完璧を期することも出来ぬまま上梓する次第で、この点重々お詫び申し上げます。

最後にこの冊子作成にあたり、多忙な職務をさいて協力して下さった関係機関並びにその職員各位に敬意を表するとともに厚く御礼を申し上げます。

昭和40年12月

編 集 者

昭和40年12月10日 印刷

昭和40年12月28日 発行

復興記録

36.6 梅雨前線豪雨災害上伊那編

編集兼発行人 長野県
上伊那町村会
伊那市
駒ヶ根市
長野県伊那市本町
印刷所 伊那毎日新聞社